

国体集団演技に関する基礎的研究  
——第41回から49回国体までの演技傾向について——

川端昭夫\*

A Study on Massgame in National Sports Events in Japan  
—— Based on the Trends of Massgame from the 41st. Sports Event to the 49st. ——

Akio KAWABATA

**Abstract**

The purpose of this study was to investigate the trends of massgame in national sports events from the 41st. event to the 49st. With the reports on national sport events, the training manuals of massgame and massgame VTR, the main theme, the idea of performance, composition of the program were arranged, and the trends of hand apparatus, big apparatus, clothes, contents of performance etc and the changes from the 41st. to 49st were investigated in the massgame. Results of the study are summarized as follows :

- 1) The theme, performance ideas, and arrangements of the program by prefectures were arranged.
- 2) The theme and ideas of performance originally included the characteristics of prefecture and the viewpoints of the theme were nature, history, future, new world, mainstreet (communication), energy and force, dream, love, intelligence, one's native country, etc.
- 3) The trend of performance composition was by prefecture originally. Group of performance were mainly during pre-ceremony kindergartengroup, the boy scouts, private groups etc., and during post-ceremony elementary school, junior school, junior high school.
- 4) In composition of the program, those of the 41st, 42nd, 43rd, 44st, 45st, and 48st were similar to each other. The 46st, 47st, and 49st were different.
- 5) The number of performances was from 8 to 11 during pre-ceremony from 4 to 6, and during post-ceremony from 4 to 5.
- 6) Total time of the program was from 90 min. to 120 min. (mainly 100 min.). The distribution between pre and post ceremony was the ratio of 1.2-2.0 to 1. Time of the performance in the program was about 10 min. and the finale was from about 7 min. to 8 min.
- 7) The number of performers in the program was from 100 to 3,700 people. The total number of performers was from 9,100 to 14,200 people. and the finale was from 3,700 to 6,300 people.
- 8) The proportion of hand apparatus used was 80 % for men, and 90 % for women. The kinds of hand apparatus which were frequently used were a big cloth, "ponpons", flags, sticks, folding fans etc. and its

---

\*助教授

- apparatus were continually used from the 41st to the 49st.
- 9) The proportion of bigger apparatus used was 24 % for man, and 19 % for women. The kinds of bigger apparatus which were frequently used were parabolon, goal, trampoline, merry-go round, etc. Especially the kind for man were ladders, and triangular horizontal bars.
- 10) Kinds of outerclothes which were frequently used in the performance were T-shirt, running, etc, for men, and for woman T-shirts, leotards, marching uniforms, kimono, etc. Underwear were shortpants, sapat, trainers for man, and shortpants, spats, skirts etc, for women. Kinds of Socks were socks, stockings, tights for man and woman. Kinds of demonstrative clothes, were caps etc. Special clothes were for example the racial clothes, clothes of "NOGAKU", Japanese canonical robe.
- 11) Performances consisted of dances, "Hitomoji", Japanese folksdance, apparatus gymnastics, folk art, pyramidbuilding, soccer, etc. for man, and for women dances, "Hitomoji", rhythmic movement, folkdance, Japanese dram, marchingband, Japanese folkdance etc. The kinds of contents continually performed from the 41st to the 49st were dances, "Hitomoji", rhythmic movement, Japanese folkdance for men and women. The program were mainly consisted of dances, folk art, and gymnastics, rhythmic movement, sports, "Hitomoji", etc. The number of performances in one program was from 10 to 33 for man, and from 13 to 37 for women.

## 1 序 論

マスケームは、「観客を前提として、体操やダンスなどを集団的に行う運動」<sup>35)</sup>とか、「集団的斉一的運動の表現性を第一義的に問題とし、審美的意図と集団の意識の高揚をねらいとしておこなわれる運動」<sup>20)</sup>とされる。その(mass game)表現には、本来はボール取り、おき換えリレー、綱引きなどの集団でゲームをすることであるが、我国では集団で行う体操、ダンスを指して、慣例的に用いられることが多いようである。

実際のマスケームでは、小規模なものは小学校、中学校、高等学校、大学などの教育機関での運動会や、地域の開催するスポーツ大会の集団体操などから、国内的な大規模なものでは、高校総体や国民体育大会での集団演技<sup>36),38)</sup>、国際的にはオリンピック、アジア大会、ユニバーシアード、世界体操祭(ワールドジムナストラダ)の開閉会式や多集団グループの発表などで<sup>24)</sup>行われるマスケームなども良く知られるところである。

また、国外では歴史的に有名なものとしては、スパルタキアード、チェコスロバキアのソコル祭などは数万人規模のマスケームとして大正

期から我が国に古くから紹介され、その後国情によって一度中断されたが、一昨年再度ソコル祭として多少小規模になったとはいえ復活された<sup>22)</sup>。現在は、国単位による大規模なマスケームを開催される所は減ったが近年で著名なものは北朝鮮のマスケームである<sup>29)</sup>。これは、演技者及び人文字を含め5万人規模のマスケームで、演技のストーリーに併せてフィールドと人文字が同時に展開される高度な内容でのもので、その規模の大きさと美しさ、統率性は、わが国でもテレビでも放映され記憶に新しいところである<sup>その他3-6)</sup>。

我国のマスケームは、昭和の初期からチェコソコルや、北欧のリング週間などのマスケームの影響を受けたとされる。1935年の日本体操祭、青年体操祭、リズム体操祭などの行事を主体として日本のマスケームは発展し、その他、朝日新聞社の体操祭、毎日新聞社の自校体操競演会などの報告もあり、相互にマスケームの発展に寄与したものと思われる。戦争による中断により一時は低迷したが、全国青年大会(昭和27年)、日本体操祭の復活(昭和43年)や、国体の開閉会式のマスケームの成長、アジア大会(昭和33年)のエキジビションのマスケームなどはマスケームの発展に大きく影響した<sup>38)</sup>。しか

し、これらの行事の終結により、定例的で大規模なものは国体での集団演技などしか見られられなくなってきている。

マスゲームの価値には議論があるところであるが、規模の大小を問わず、演技者の側にも、鑑賞者の側にも、その集団の美しさ、統率性、ダイナミックさ、集団リズム、観客との共感性などから少数の展開では味わえない感動をあたえてくれる貴重な運動文化と言える。

マスゲームの意義や効果は、集団生活における責任と協力性を養う、集まって運動することで興味づけする機会と明朗な社会性を養う、運動に対する自主性と習慣性を養う、自分自信の体の状態を知る、作業的動作の基本姿勢となるなど<sup>47)</sup> その実施には大きな意味を持つものである。

現在までマスゲームに関する研究及び報告は、実状報告及び事例の報告的なもの、運営開催に関するもの、演技構成や指導や演技展開に関するもの、その他の基礎研究などが見られる。

- 1) 実状報告及び事例報告的なものとしては、大谷武一による「ソコール」についての報告<sup>40)</sup>、見形の日本体育大学の日本体操祭の視察報告<sup>27)</sup>、羽仁の自由学園の集団体操の事例報告<sup>7)</sup>、伊藤の全日本青年スポーツ祭典の記録報告<sup>19)</sup>、秋田国体集団演技の演技練習や内容の報告をした寺田(小学生)、笹村(中学生)、舘岡(高校生)らの事例報告、山中の川崎市高校マスゲームの事例報告や<sup>42),45),46)</sup>、成瀬の日本女子体育大学のマスゲーム出演の報告<sup>38)</sup>したものや、塚脇の「戸倉ハルの集団演技としてのダンス」を整理しまとめた研究<sup>43)</sup>などが見られる。
- 2) 運営開催に関するものとしては、雨ヶ崎の第22回国体大会の高校女子の運営実施計画の報告<sup>2)</sup>や飯田による東京都板橋区の日本体操祭への参加計画(昭和43年)の報告<sup>17)</sup>などがある。
- 3) 指導や展開に関するものとしては、濱田の学校体育にけるマスゲームのあり方<sup>9)</sup>をのべたもの、松延の新しいマスゲームへの一視点を述べたもの<sup>31)</sup>や、遠山の運動会のマス

ゲームへの徒手体操の構成、指導、演出を述べたもの<sup>44)</sup>などが見られる。

- 4) その他視点の異なるものとしては、松井のマスゲームを演出者、演技者、観衆の3つの立場から心理的な立場から考察した研究<sup>28)</sup>や森の自然美運動のマスゲームへの導入を示唆したもの<sup>30)</sup>などが上げられる。
- 5) 近年の教育機関のマスゲームの現状調査的な研究では、中学校、高等学校の運動会におけるマスゲームの実状について運営や開催上の問題点、演技内容や音楽の視点から調べた荒木<sup>35)</sup>、金子<sup>21)</sup>らの研究や運動会のマスゲームでもダンス関係を取り上げている北田らの研究<sup>25)</sup>も見られる。

日本の国民体育大会には開閉会式の中で集団演技は位置づけられている。国民体育大会は、日本のスポーツ行事としては昭和20年初期から継続的に開催されている行事で51回を迎える伝統的な行事<sup>35)</sup>の一つと言えよう。そこでは、開催期間登録スポーツ種目の競技が競われ個人と県別の評価が決定されるわけであるが、開始と終了の開閉会式も感動的な行事として位置づけられている。

国体開閉会式が式典前、式典、式典後として展開される中で、参加県の行進など国体の主関連行事が式典時に、式典前及び式典後には集団演技が展開される。この集団演技は、100-120分程度で行われ、各県で個性的な演技構想で、教育機関を含めて出演団体の演技が劇的に展開される。各県ともおおむね3-4年前から準備を開始し、出演団体を含め県をあげての協力をし計画的に練習を進めるため演技のすばらしさや技能の高さも評価される場所である。さらに近年には、演技構想の入念さまた演技の出来映えを高める演出も年々手のこんだものとなり演技を助長することから更に感動を呼ぶものとなっている。

このように国内において国体集団演技は、現行では数少ない優れた集団演技(マスゲーム)としての価値をもち、また関係者にも多くの感動をあたえる教育的な作用のある運動文化としても位置づけられている。この集団演技の実態

を調査、記述すること、また演技に係わる要因の傾向を分析することは重要な運動文化を保存する基礎資料としての意味をもち、更に数年計画の継続される練習計画における演技構想、実際の運営、指導にも役だつものと考えられる。

本研究の目的は、国体の開閉会式で行われる集団演技を取り上げ、以下にあげる演技の構想、演技構成の全体、演技に関する要因についての実状を明らかにすることで、今後の集団演技の作成及び指導の際の基礎資料にしようとするものである。

#### 〈研究課題〉

- (1) 第41回から49回までの国体集団演技について演技のテーマ、サブテーマ、演技構想、演技題を調査、記述し、その傾向を明らかにする。
- (2) 第41回から49回までの国体集団演技について演技の構成、プログラム構成の状況を調査し、開催県毎の傾向及び9年間の変化を明らかにする。
- (3) 第41回から49回までの国体集団演技について演技時間、演技規模、演技の手具、大型器具、演技服飾、演技内容など演技に係わる項目について調査し、9年間の傾向を明らかにする。

## II 研究方法

上記の目的を達成するために次の研究の手順で研究を進めた。

### 1 調査期日

平成6年3月より平成8年3月

### 2 資料収集

調査資料は、日本体育協会資料室、中京大学図書館及び私蔵の「国民体育大会の報告書」その他1-(1)-(9)及び「集団演技実施要項」その他2-(1)-(7)を主要資料とした。具体的には、国民体育大会報告書については、第41回から第49回を、また、集団演技実施要項については第41回・42回・45回・46回・47回・48回・49回ものを参照した。

対象開催県は、第41回国体から第49回国体の

(表) 開催回、開催年度、国体名、開催県

回	開催年度	国体名	開催県
41	1987(昭和61年)	かいじ国体	山梨県
42	1988(昭和62年)	海邦国体	沖縄県
43	1989(昭和63年)	京都国体	京都府
44	1990(平成元年)	はまなす国体	北海道
45	1991(平成2年)	とびうめ国体	福岡県
46	1992(平成3年)	石川国体	石川県
47	1993(平成4年)	べにばな国体	山形県
48	1994(平成5年)	東四国国体	香川県・徳島県
49	1995(平成6年)	わかしゃち国体	愛知県

9回とし(下表参照)、国民体育大会報告書からは各県集団演技の演技構想及び演技構成の部分を調査した。他方、「集団演技実施要項」からは演技内容に関わる内容の掲載を抽出した。

また、上記2資料では確認できない演技についての詳細は、NHKの国体報告VTR(集団演技編)その他3-(1)-(5)と入手可能な限りの私蔵のVTRから実施要項と併せて演技の大意が記録整理され、その特性が明らかにされた。

### 4 調査項目

上記の資料をもとに、次の調査項目が調査された。

- 1) 各開催県別の演技構想の特徴について、県別の国体報告書より①演技テーマ、サブテーマ、②演技構想、③演技題が記述、調査された。それを各県別に整理し、調査対象のテーマや演技構想の素材の着眼点が整理された。
- 2) 各開催県別の演技構成の特徴について、県別の報告書をもとに演技の全体構成(演技プログラム)が記述され、それをもとに県別及び調査対象全体の①演技全体のプログラム特性、②式典前後のプログラム特性、配列などの傾向が調査された。
- 3) 国体集団演技第41回から49回迄の演技の傾向として、各県の国体報告書及び集団演技実施要項より、①演技部門、②演技規模(人数)、③演技時間、④演技使用の手具(男女)、⑤演技使用の大型器具(男女)、⑥演技内容(男女)の6項目の頻度が調査された。また、第41回から49回までの各項目のデータから9

年間の変化と傾向を調べ検討考察された。ただし、項目①②③については、2)の演技プログラム構成の項で検討されている。

### III 結果と考察

ここでは、第41回から49回国民体育大会集団演技における演技テーマ・演技構想の傾向、演技構想を受けての演技のプログラム構成、演技に関係する項目の各傾向と9年間の傾向の変化についての調査結果及び考察を述べる。

#### 1) 第41回から49回までの国体集団演技における開催県別の演技テーマ、演技構想、演技題の特性について

##### 1)-1 開催県の演技テーマ、演技構想、演技題について

国体集団演技では、具体的な演技の前に演技のテーマ、演技構想が決定され全体のストーリーが決定される。ここでは、演技作製に主体となる演技テーマ、演技構想を調べ、各県の特性を明らかにし、更には、各県別にテーマ、演技構想の中心素材を整理し、構想の観点をまとめることにした。各県別の演技テーマ、演技構想、演技順については、基礎資料に整理されている。表I-1から表I-3は、基礎資料をもとに各県別のテーマと式典前、式典後の演技構想を整理し、構想の特性をまとめたものである。

##### 1)-2 演技テーマ、演技構想からみた各県の特性について

表I-4は、開催県の演技テーマ、演技構想、演技題を示したものである。表I-4の各県の傾向と表I-1からI-3までの構想傾向をもとに、県別のテーマと演技構想の特性を明らかにした。以下各開催県別に、演技テーマを形成するキーワードと演技構想の素材を示したものである。各開催県とも個性的な内容でテーマ決定、演技構想を進めている事実がうかがえる。

- | 〈回数〉  | 〈開催県〉 | 〈テーマ〉   |
|-------|-------|---|
|       |       | 〈演技の構想の素材〉  |
| * 41回 | (山梨県) | ……自然と甲斐路<br>自然と人の生活や交通と人々の生活                            |
| * 42回 | (沖縄県) | ……(記述なし)<br>沖縄の自然の特性、平和への願い、スポーツ活動                      |
| * 43回 | (京都府) | ……歴史と未来<br>久遠の歴史、豊かな自然、京の産業、文化創造をしてきた京都人の感性             |
| * 44回 | (北海道) | ……歴史と四季<br>郷土の歴史と郷土の特性、四季の人々の生活(冬の季節)                   |
| * 45回 | (福岡県) | ……ときめきとみなぎる力<br>活発な人々、豊かな自然、大陸文化との接点                    |
| * 46回 | (石川県) | ……世界の石川 大地、歴史<br>世界の市町村の姉妹都市の民族特性や市町村の史実や特色祭り           |
| * 47回 | (山形県) | ……流れるふるさとの歌<br>自然とべにばなの開花、新しい山形の創造、躍動、新アルカディアの地にのストーリー化 |
| * 48回 | (東四国) | ……太陽とときめく心、熱気、友との出会い、阿波の人々と阿波踊り、郷土文化や郷土の象徴              |
| * 49回 | (愛知県) | ……夢、愛、知<br>「集う人の」夢、「心の豊かさ」愛、「自由な創造」、知                   |
- 1)-3 演技テーマ・構想の素材の特性について  
演技作製の上で、演技構想でストーリーを膨らます素材は、演技全体を決定する程度の大きな意味をもつ。そこで、表I-4より演技テーマの素材を県別で整理し、素材をまとめた。整理された演技テーマの中心となる内容となるキーワードと開催県別に抽出し、素材の観点をまとめ整理した。開催県別のテーマ、構想の具体的な素材をもとにされた素材の観点は、自然、歴史、未来、新しい世界、交通、エネルギー、夢、愛、知、国際性、郷土性・地域性などの11カテゴリーに分類された。以下、その結果を示すことにする。

〈表1-1〉各開催県集団演技のテーマ、演技構想の概要、及び演技構想の特性

回	開催県	テーマの素材	演技テーマの素材 (式典前後)	演技構想	構想の特性
41	山梨県		(前) 山 (一自然)  (後) 甲斐路 (一交通)	山(富士山, 八ヶ岳, 大菩薩, アルプス)などの大自然との係わりを郷土芸能祭りで表現し, 甲斐路を往来する人々の生活の活発さを子供のダンス, 婦人の踊り, マーチングで表現する。 自然のやすらぎ, 文化と豊かな産業, 英知と力と躍動をそれぞれ小学生, 中学生, 高校生で表現し, 友情の和, 夢と力, 未来への輪をひろがりフィナーレで表現	・山を主体とする自然と人との関わり, 甲斐路という交通路とそれと関わる人々の生活を題材にしている。
42	沖縄県		(前) 美しい自然, 豊かな文化 スポーツに親しむ姿  (後) 豊かな自然, 平和な世界 沖縄の躍進	太陽の象徴的な姿を郷土芸能や祭り, 沖縄独自の空手の型を, 耳来のある少年の勇姿をスポーツ活動で太陽のもと元気な子供の姿を表現し, 自然の美しさと文化を躍動的で新鮮にマーチングで, 最後に婦人の演技で国体を讃える。 伸び伸び育つ子供の姿を小学生が, 海に向かうたくましくい鳥人の姿を中学生が, 限らない平和の願いを高校生が表現し, 最後には創造, 平和と友情の輪の広がりをフィナーレで表現する。	・郷土芸能と武芸を多く取り入れ入っている 沖縄独自の文化, 躍動感のある生活が強く出されている。  歴史的な平和への願いが込められている。
43	京都府	新しい歴史	(前) 川 (→歴史の流れ) ——悠久の流れ—— 久遠な歴史, 豊かな自然 多彩な文化創造, 京の人々  (後) 川 (→歴史の流れ) ——未来に向かって—— 明日への希望 未来 夢模様	京都の四季の変化を中学生が, ハイタッチな京都人の感性を染め織り婦人が, 京都のハイテクをコンピューターグループにたたく小学生が表し, 伝統芸能とスポーツ少年団により文化の流れを, 祭を支える町衆の力を子供の夢を小学生が, 希望ある幼児の姿を, 若者の躍動感を高校生が, マーチングで音と色と造形の調和を表現し未来に発展する京都の姿をフィナーレで現す。	・一文字での演技題の表現が面白い。京都人の感性なども題材に取り上げている。
44	北海道		(前) 北のあゆみ (→歴史)  (後) 北の四季 四季折々の風物や人々の生活を表現	プロログとして郷土文化をアイヌ舞踊を, 北海道の開拓のあゆみを壮観な和太鼓で, 人々の生きた喜びを婦人の民謡で, 人の躍動感やふれあいをスポーツ少年団と3世代の人々が現し, 北海道の未来への躍進をマーチングで現す。 はじめに雪の舞, 吹雪と流氷, 雪の結晶など冬の表現を中高生が, 雪解けの水, 春花の舞など若緑の春の様子を幼児が, 恵みの夏を祭や花火を題材に小学生が現し, 収穫実りの秋を大漁のよろこび, 黄金の嵐などを高校生が表現し, 最後に風と大地とをテーマに北海道地図, 国体マーク, シンボルマークを使って国体開催を讃える。	・前半は, 北海道の歴史を題材にし, 後半は, 地域の自然環境の厳しさ, 美しさをテーマにしている。 ・部門では3世代や, 大学生の導入が特徴的である。

〈表1-2〉各開催県集団演技のテーマ、演技構想の概要、及び演技構想の特性

回	開催県	テーマの素材	演技テーマの素材 (式典前後)	演技構想	構想の特性
45	福岡県	ときめき であい みなぎる力	(前) ときめき (→人の集い、ときめき歓迎 の心)  (後) みなぎる力 21世紀を担う若人 ——豊かな自然、大陸との文 化接点、国際交流——	初めに福岡の心を民族芸能、国歌や音頭で、スポーツの活動状況やスポーツ少年団の演技で活発に表現し、次で子供の遊び姿や未来への躍動感を自然なテーマに展開し、最後をマママーションバンドとパトロールの華麗な動きでしめくくる。初めに海に向かう先人の歩み、文化の伝来の喜びを小学生が表現し、豊かな大地で働く人々、それからの収穫の喜びを中学生が手具体操で現し、次いで高校生が若者の躍動感を体操、ダンスで表現し、最後に福岡の未来への躍動の姿をフィナーレで表現する。	• 演技題として自然や大陸文化と交流など地域性を生かしている。 • 地域で盛んなスポーツ活動を生かしている。 • 手具体操や組体操など体操系を生かしている。
46	石川県	(後) 祭り・わが約束の大地・歴史 の中の石川	(前) 愛・いま国境を越える・世界 の中の石川	市町村の特徴と、姉妹都市の民族や風習を演技の盛り込む。演技題順に構想の素材を述べる。 1) プロローグ—国際交流を万国旗で表現 2) 友情と信頼—ブラジルサンバと小松市安宅の関のエピソード はじめるやさしさ—平和の精神をアメリカブルースと加賀の千代女 3) 先人の心に生きたる一知恵と努力、先人の遺産をカナディアンインディアンと加賀市の取納舞法 4) 自然との交流—自然環境の大切さをオーストラリアのカンガルやようなどや内浦町のアマメハギで 5) 大地への祈り—母なる大地への賛歌をシベリアエウアン族の祈りの踊りと根上町の「松の踊り」で 6) あしたをうたう—明日の期待と希望を韓国の「農楽・プンムルノリ」と七尾市「七尾またら」で 7) エピローグ—世界の石川を市町村旗と姉妹都市国旗を掲げて国体開催を讀める。 1) 遠い夜明け—先史の化石の村白峰村を恐竜の踊りで表現 2) 青きよそお—縄文遺跡(真脇)を唄び、「イルカ」「縄文土器」に因る集団演技と能登と関連の深い折口信詩で表現する。 3) 山への畏れ—大自然への崇敬と畏れの対象たる山を中西、悟堂の「白山の美林に讀す」の一節と巫女と修験者の踊りで現す。 4) 海へのあこがれ—ユートピアへの憧れをばっ海使の寄港港であった富来町福浦港を素材に表現する。 5) いのちの賛歌—いのちの尊さと美しさを俱利伽羅峠の合戦とその記述のある平家物語の詞章で表現する。 6) 幸せを求めて—幸せへの願い、そのための戦いを野々市、じょんがらと一向一揆で表現する。 7) 豊かななみのり—大きな実りを「あえのことこと」の豊作への祈りと「女神の舞」などの演技で加賀百万国の繁栄を表現する 8) はげめ我が女—近代は教育時代、それを第4高等学校に象徴して現す。 9) エピローグ—「海は青く山は緑に黄金の稲穂」石川県体の精神、未来への賛歌を現す。	• 市町村の特性と姉妹都市の国の民族特性と民謡を盛り込み国際性と地域性をだしている。 • 歴史性を重視して、豊富に地域の名所や逸話、記録を残している。

〈表1-3〉各開催集団演技のテーマ、演技構想の概要、及び演技構想の特性

回	開催県	テーマの素材	演技テーマの素材 (式典前後)	演技構想	構想の特性
47	山形県	おもいっきり躍動 21世紀の主役たち	演じるふるさとと詩 (前) 流れるふるさとと詩 (後) 躍動新アールカディアの地に	プロローグで最上川の情景の美しさを現す。 であいとはくぐくみでは、べにはばなの大きな種と子供達の出合い、べにはばなの成長の過程、開花の様子を現し、フィナーレは、ふるさととの華やかな祭りとべにはばなの開花の喜びを表現する。 旅立ちでは新しい世界、山形の創造の呼びかけから始まりそれを呼応する人々をマナーチングで表現する。冬の季節の試練をうけるが、冬から新しい力、躍動の芽が育まれる。フィナーレは、新しい世界を創造する若者の姿と観客による喜びの歌の大合唱が響き、若者全員の造形美で幕が閉じられる。	・テーマ「紅花」の育成を主体として展開され、随所に地域性や季節性がくみこまれた構成になっている。  ・郷土芸能、民謡（阿波踊り）を多く取り上げている。 ・東四国だけに地域的な題材が豊富である。
48	東四国	出合い、競いそして 未来へ	(前) 輝く太陽ときめく心 出合い、 夢と希望の演技 (後) 明える山なみ熱気は踊る 豊かな自然、阿波の文化、若 人の未来への躍動	プロローグを郷土芸能・太たく三味線と阿波の調べを、阿波の様子を婦人が民謡でつづり、少年少女が日常のスポーツ活動状況と親子が触れ合いの和を表現する。幼児がマスケットのすだちくんと供に夢と希望を表現する。マナーチングバンドが演奏と躍動感ある動きで出合いの喜びを表現する。前半最後は、郷土芸能阿波踊りで阿波の熱気を表現する。 秋から冬へ四季の変化に伴う吉野川や剣山など自然の変化や秋の実り収穫や冬への変化の情景が表現する。春のおとつれを花、虫、春のお通路さんまた大小の高潮を小学生が表現する。夏、阿波の文化である藍を題材に明える阿波を情熱的なサンバ調で表現する。フィナーレは、未来へ躍進する阿波の姿を、国体シンボルママーと瀬戸大橋で表現する。	・郷土芸能、民謡（阿波踊り）を多く取り上げている。 ・東四国だけに地域的な題材が豊富である。
49	愛知県	夢愛知	(前) 夢 集う人の夢が一つになり国体開 催を祝う (後) 愛知 「愛」と「知」の調和の大切 さと調和する人間の尊さを 表現	1) 夢のはじまりー夢の誕生それが現実にもむかかってふくらむ様子を小学生が表現、 2) 夢咲く人々ー夢が集まり希望あふれる夢の固まりになる様子を表現 (小学生) 3) 夢「わかしゃち」ー婦人の民謡によるお祭りの表現、スポーツ少年団による夢と力と希望の象徴の囂もち躍動する国体マスケット「わかしゃち」の分身たる幼児が夢いっぱい心の心で動き回る。 4) 夢愛知ー夢の実現と社会の形成、その中で夢と野望の人々が生きる。夢は受け継がれ時世代で成就される。愛知の過去現在を表現し、未来に向けて虹の架け橋を形成する(中学生、リフエーション) 5) ふくらむ夢ーこれから始まる祭典を歓迎し、大学生が夢を膨らみ、語り、もち続ける楽しさ、夢を持つ生き甲斐、はじける若さを表現する。 1) 愛の賛歌ーマナーチングバンドが繊細なしかもあたたかたかな動きと愛の感動を呼ぶ響きを展開する。 2) 愛ふれあいー愛の表現たる喜怒哀楽を婦人が踊りにより表現する。 3) 知の賛歌ー躍動的な人が創り出す幾何学模様は未来への可能性を秘めた姿である。更に知の結集たるユニットピアノが形成され華やかな未来平和な地球の象徴する大きな塔となる。 4) 英知結集して一人人間の英知の結集された動き、高校生が愛知の伝統と21世紀への発展を現す。 5) 愛と知のハーモニーー壮大な人類のロマンを予感させる人文字。「人間賛歌」の大合唱が響く。	・構想題材が県名を主に簡素化され用いられ演技にも統一されて使われている。 ・夢愛知という抽象的な題材を使い、それを地域の歴史や芸能と使って演技に巧みに具体化している。



〈表1-4〉各開催県の演技テーマ、演技構想の素材及び演技題

回	開催県		テーマ	演技構想	演技題
41	山梨県	前	山なみにこだまして	富士山などの山, 人の生活	遠い日のひびき, はずむよるこび
		後	甲斐路の詩	甲斐路, 大自然, 文化, 大き輪, 未来	やすらぎの甲斐路, 豊かなあゆみ, 限らない躍動, ふれあい賛歌
42	沖縄県	前		自然, 伝統文化, スポーツ活動状況	あけもどろの詩, 無手の拳, 青空に翔べ, 太陽の子, たたえよ海邦, ゆかりし沖縄
		後		豊かな自然, 平和や世界, 躍進	躍動する南国の子, たくましく生きる島人, 平和への願い, ひろげよう豊かな輪
43	京都府	前	川よ—悠久の流れ	久遠の歴史, 豊かな自然, 多彩な文化する京都の人	プロローグ, 雅(京の美), 彩(ハイタッチ京都), 創(ハイテク京都), 愛(文化の流れ), 和(町衆の力)
		後	川よ—未来へ向かって	未来の空に虹, 夢模様	憧(はずむ心), 夢(未来くんにあつまれ), 躍(翔よう未来へ), 響(今高らかに)フィナーレ
44	北海道	前	北のあゆみ	—	北のあけぼの—アイヌ舞踊—, 北の鼓動—太鼓—, 北のよろこび—民謡—, 北の躍動—スポーツ演技—, 北の未来—マーチング—
		後	北の四季	四季折々の風物, 人々の生活	白銀の冬, 若緑の春, 太陽の夏, 黄金の秋, 風と大地—フィナーレ—
45	福岡県	前	ときめき	ときめく演技	輝く福岡, ゴールへのチャレンジ, はずめころがれまいあがれ, 響けときめき
		後	みなぎる力	豊かな自然, 大陸文化との接点, 国際交流の拠点, 21世紀に若人	海を超えて, 豊かな大地, はばたけ若人, 若き夢・はじめる心・舞い上がれ
46	石川県	前	愛・いま国境を超える世界の中の石川	姉妹都市の民族風習, 市町村の特色	プロローグ, 友情と信頼, 先人の心に生きる, 自然との交流, 大地の祈り, エピローグ
		後	祭り・わが約束の大地・歴史の中の石川	歴史のうねり, 恐竜の歯, 化石, 縄文遺跡, ぼっ海の寄港, 石川県歴史絵巻	先史—遠い夜明け—, 原始・古代—青きよそおい—, 山への畏れ, 海の憧れ, いのちの賛歌, 豊かなみのり, 近代—はげめ我が友—, エピローグ
47	山形県	前	流れるふるさとの歌	最上川の流れ, べにばなに実りふるさとの祭りの華やかさと開花喜び	プロローグ, であい, はぐくみ, かい
		後	躍動新アルカディア	べにばなの新しい世界の創造への呼びかけ, 応える人々, 冬の季節の試練, 躍動の芽, 世界を創造する躍動感の人	とき(旅立ち), とき(試練), とき(胎動), とき(躍動)
48	東四国	前	輝く太陽・ときめく心	友とさわやかな出会い, 夢と希望	プロローグ, ふるさとのかおり, 躍動とふれあい, すだちくんあつまれ, 今ときめいて, ふるさとの熱気
		後	萌える山なみ熱気は踊る	豊かな自然, 阿波の文化, 歴史を受け継ぐ人々, 未来への躍動	彩なす秋そして冬, もえたつ春, あいあふれる夏, フィナーレ
49	愛知県	前	夢	集う人の愛, 国体のはじまり	夢はじまり, 夢咲く人々, 夢わかしゃち, 夢愛知, ふくらむ夢
		後	愛と知	心の豊かさ「愛」, 自由な発展の社会築く「知」, 2つの調和した人間の尊とさ	愛の賛歌, 愛ふれあい, 知の賛歌, 英知結集して, 愛と知のハーモニー

〈素材の観点〉	〈演技素材の具体的例〉
1 自然……………	山, 川, 山なみ, 太陽, 四季など
2 歴史……………	悠久, 流れ, あゆみ
3 未来……………	未来
4 新しい世界……	アルカディア
5 交通……………	甲斐路
6 エネルギー……	熱気, 心のたかまり, 躍動, 力, ときめく心, みなぎる力, ときめき
7 夢……………	夢のひろがり, 夢
8 愛……………	愛いま国境を超える世界の 中石川
9 知……………	知
10 国際性	
11 郷土, 開催県…	北, 愛知, 石川, わが約束の大地, 郷土をたたえる, ふるさとの歌

演技テーマの設定は、愛知県の場合、メインテーマを受けるもの、スポーツ文化のイメージを持つ、県の特色づけるテーマ、メッセージ性やドラマ性が高いテーマ、参加者に深い感銘を与えるテーマであること、広がりのある創造性などの配慮されたものであることなどが検討された<sup>1)</sup>。今回の結果とともに、スポーツとの関連性、メッセージ性、参加者への感銘性・伝達性、創造性なども加味されものであることが必要と思われる。

## 2) 第41回から49回まで国体集団演技の演技プログラム構成、演技配列、演技時間、演技規模の傾向について

### 2)-1 各開催県の演技プログラム構成の実状とその特性について

集団演技のできばえの評価は、先の演技テーマや演技構想に左右されるが、これらを受けて演技がストーリー化され具体化されたものが演技のプログラムである。そのため、演技全体の中での式典前後の配列、或いは前後内での配列、全体の中での演技抑揚、引いては各演技の出来映えなどが評価に影響する。ここでは、第41回

から49回までの開催県毎の集団演技の演技全体を式典前後別に演技プログラム構成の特性を明らかにし、対象年度内での特性の変化を調査した。

表II-1, 表II-2, 表II-3は、第41回から49回国体までの集団演技の演技プログラム構成を式典前後別に示したものである。また、これを基に、県別に演技プログラム構成の特性、式典前後の演技配列比、演技数比、演技時間比、演技規模(人数)比を整理しまとめた(表II-3, 表II-4)。

表II-4, II-5より、演技プログラム構成について次の様な特性が明らかになった。

- (1) 各県は、個性的な演技プログラム構成をしており、固定的な傾向は見られない。
- (2) 式典前後の演技配列については、特定の配列順序はなく個性的である。
- (3) 式典前後の演技部門の傾向は、おおむね式典前には伝統芸能、婦人、スポーツ少年団、幼児あるいは一般部門(体操、ダンス、スポーツ活動のグループなど)が配列される傾向にある。これらは、式典前の導入や地域の紹介、緊張の緩和などの点でこれらの部門の動員が考えられているものと思われ、式典前に柔らかい感覚を婦人やスポーツ活動が、地域性を郷土芸能や民謡などが、幼児が和やかな感覚を与え場をなごませる存在として位置づけられていると考えられる。また、式典後では、小学校、中学校、高等学校などの教育機関が主に配列される場合が多く見られる。これらは地域での多人数動員の容易さ、高度な演技や、秩序性や集団性、統一性、一定以上の表現性のある演技、男女特性のある演技を可能にする年代であることや、演技練習を計画的に、段階的に進められる対象であること、更にはフィナーレの数千人での演技に答えられる対象であることの理由が考えられ、各県ともこれらの部門の動員は式典前後のマスゲームのハイライトに位置づけられる存在となっている。その他、マーチングバンド、バトントワリングは軽快な音楽に合わせた女性的、高度な技術の演技により恒例的に取り上げられ式典

〈表II-1〉各開催県別集団演技の演技プログラム構成(第41回～44回)

回	41 山 梨				42 沖 縄				43 京 都				44 北 海 道			
	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間
1	伝	郷芸	500	25.0	伝	郷芸・綱引き	1600	25.00	伝	琴尺	300	5.00	大ダンス	ダンス	700	10.00
2	婦	民謡	2000	10.0	空手愛好	空手	800	10.00	中	ダンス	1700	9.00	伝	郷芸	430	10.00
3	婦ス	サッカー	500	11.0	ス	サッカー	600	10.00	婦ジャズ	民謡	1350	11.00	婦	民謡	1600	10.00
4	婦	体操ジャズバスケット	500	10.0	幼指	遊戯・ダンス	1700	10.00	小	ダンス	1700	9.00	3世代	手体・サッカー	990	15.00
5	幼	ダンス	2000	11.0	マ	マーチング	300	15.00	婦ス民剣	武芸・剣道	1450	16.00	高	マーチング	220	15.00
6	マ	マーチング	258	15.0	婦	民謡	1800	10.00	ス伝	郷芸・民謡	800	10.00			3940	<60.0>
7			5758				6800	<80>			7300	<60.0>				
8																
9																
10																
			12058	120			12600	120			12300	100			10190	100
		総														

1	中	徒体ダンス/文	2000	10.0	小	遊戯・手体・ダンス	2000	10.00	小	ダンス	900	8.00	中高	ダンス	2150	10.00
2	小	ダンス	2000	10.0	中	ダンス・武芸	2000	10.00	幼	遊戯・ダンス	1750	8.00	幼	遊戯・ダンス	1600	6.00
3	高	トランプ/サッカー	1800	10.0	高	手体・組体/ダンス	1800	10.00	高	ダンス・トランプ	1850	8.00	小	ダンス	1700	7.00
4	小中高婦	ダンス・文	6300	7.3	小中高	手体・ダンス・文	5800	6.00	マ	マーチング	500	11.00	高	ダンス	800	10.00
5				<40.0>		字		<40.0>	幼小高マ	ダンス・文	4300	5.00	小中高	ダンス・文	6250	7.00
6												<40.0>				<40.0>
7																
8																
9																
10																
			12058	120			12600	120			12300	100			10190	100

(部門略) 幼：幼児, 小：小学生, 中：中学生, 高：高校生, 大：大学生, 伝：伝統芸能, 婦：婦人, マ：マーチング少年団, 指：指導者, 民：民謡  
 剣：剣道

(演技内容略) 郷芸：郷土芸能, 手体：手具體操, 徒手：徒手体操, 徒手：徒手体操, マーチング：マーチングバンド, 文：人文学  
 ※各部門の人数と表の総数は、複数資料参考のため多少異なる場合がある。

〈表II-2〉各開催集団演技の演技プログラム構成 (第45回～47回)

回	45 福 岡				46 石 川				47 山 形			
	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間
1	婦伝	郷芸・民謡	1800	20.0	高	マーチング	222	4.10	幼高	遊戯・ダンス	2800	14.00
2	ス	サッカー	500	10.0	小中	ダンス・海外の踊り	669	5.42	中高	ダンス	1600	10.00
3	幼指	遊戯・ダンス	1700	10.0	幼中婦	ダンス・遊戯	850	6.28	小中高婦	遊戯/遊技・ダンス	2200	11.00
4	マ	マーチング	300	10.0	小高	民謡・海外の踊り	598	5.53	小高・中許	ダ・民・民謡・海外	3500	13.00
5			4300	<50.0>	幼小中高	ダンス・民謡	700	6.46				<50.0>
6					小中	海外の踊り	387	5.29				
7					小中高	遊戯・ダンス・民謡	1397	9.04				
8					幼小中婦	ダンス・民謡	714	6.24				
9					小高・中許	ダンス・民謡	393	6.39				
10					幼中高・中高	ダンス・文	5930	10.00				
式 典 前												
1	小	手体・ダンス・文	2000	10.0	小中	遊戯・ダンス	208	5.03	高・中・高	ダンス・マーチング	900	13.00
2	中	手体・ダンス	1800	10.0	小高	遊戯・ダンス	270	4.80	中高	ダンス	1800	12.00
3	高	手体・文	1900	10.0	中	民謡	421	5.11	小中	組体・ダンス	2700	9.00
4	小中高	文	5700	10.0	小中高婦	民謡	346	3.19	小中高	組体・ダンス 文	3700	13.00 3.00
5				<40.0>	中高	ダンス	800	3.59			5600	50.00
6					小婦中高ス	ダンス・ダンス・民謡	1344	7.02				
7					高婦	ダンス	1122	8.31				
8					高	ダンス・剣道・スポーツ	520	5.15				
9					小中高婦ス	ダンス・文	5031	5.00				
10												
総計			10000	90			12358	<100>			13800	100.0
式 典 後												

〈表II-3〉 各開催県集団演技の演技プログラム構成 (第48回~49回)

	回	48				49			
	県	東四国				愛知			
		部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間
式 典 前	1	伝	郷芸	100	5.00	小	遊戯・ダンス	1600	5.00
	2	婦	民謡	2000	12.00	小	遊戯・ダンス	1600	7.00
	3	ス	サッカー・バレー・文	700	10.00	幼婦・一般	ダンス・郷芸//ダンス・民謡	3900	22.00
	4	幼	遊戯・ダンス	1800	8.00	中・中高年・ス	徒・組・郷芸・民・文 遊戯・ダンス・文	2200	16.00
	5	マ	マーチング	300	10.00	大	ダンス	600	8.00
	6	伝	郷芸/民謡	700	15.00				<60.0>
	7			5600	<50.0>				
	8								
	9								
	10								

(婦人1900, 一般500, 幼児1500)

(リフレッシュエイジ<中高年> 500, 中学生1700)

式 典 後	1	中	ダンス	1600	11.00	マ	マーチングカラーガード・ パントワラー	400	8.00
	2	小	ダンス	1800	10.00	婦	ダンス	600	7.00
	3	高	手体・ダンス	1600	11.00	大	手体/手体・ダンス	1300	8.00
	4	小中高	ダンス・文	5000	8.00	高	徒体・手体・組体・器械体 手体・ダンス	2200	8.00
	5				<40.0>	高大婦マ	文	4300	7.00
	6								<40.0>
	7								
	8								
	9								
	10								
				10600	<90.0>			14200	100.0

前後いずれかに一回は配列されている。

(4) 第41回から49回までの演技プログラム構成の変化は、各県の個性的はあるが、おおむね次のような傾向が明らかになった。

① 第41回から45回までの式典演技の配列は、部門の単独動員や組み合わせ動員の差異はあるが式典前に郷土芸能、婦人、幼児マーチングなど、式典後に小中高を配列するなど類似の傾向をしている。とりわけ、第41回と第42回は類似している。

② 46回石川国体は、従来の配列、演技数、演技規模の点でも、他県のプログラム構成とは全く異なっている。

③ 47回山形国体は、演技部門が主として幼児、小中高を主として生まれ、しかも単独演技でなく数個の組み合わせが特徴である。その他一般参加は、婦人と中高年のみ動員が少ない。

④ 48回東四国国体は、45回までの演技配列、動員部門共に類似している。

⑤ 49回愛知国体は、45回までと配列及び47回の部門の組み合わせと類似しており、折衷型とも考えられる。演技部門では小学校、高校、大学の単独や、幼児・婦人・一般、スポーツ少年団・中学生・中高年の組み合わせが特徴的である。

〈表II-4〉各開催県別集団演技の演技プログラム構成の式典前後別特性（第41回～44回）

回	開催県	式典前	式典後	式典前後配列比(前>後)	式典前後時間(前>後)	式典前後人数比(前>後)
41回	山梨県	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成は伝芸-婦人-スボーツ少年団-婦人-幼児-マーチングの配列である。</li> <li>スボーツ活動としてサッカーバスケット</li> <li>婦人部門の導入が目立ち(ジャズダンス愛好者もある)</li> <li>幼児の表現、ダンス、マーチングの動員も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学-小学-高校-フィナレの配列である。</li> <li>中学校では男子が徒手体操、女子がダンスと人文字の形成もある。</li> <li>高校生のトランポリン、サッカーが特徴的である。</li> </ul>	6>4 (計10個)	80>40 (計120分) <前> <後> 10分(1) 10分(3) 11分(2) 7.3分(1)F 15分(1) 25分(1)	5758>6300(人) (12058人) <前> <後> 258人(1) 1800人(1) 500人(3) 2000人(2) 2000人(2) 6300人(1)F
42回	沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成は、伝芸-空手愛好家-ス-幼児-マーチング-婦人の順である。</li> <li>郷土芸能、綱引きによる沖繩の特性を表現</li> <li>空手などの武芸、民謡が特徴・スボーツ少年団によるサッカー</li> <li>幼児、マーチングも見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学-中学-高校-フィナレ-小学-小学生に遊戯、ダンス、や手具体操など多彩である。</li> <li>中学生に武芸とダンスの組み合わせが特徴である。</li> </ul>	6>4 (計10個)	80>40 (計120分) <前> <後> 10分(4) 6分(1)F 15分(1) 10分(3) 25分(1)	6800>5800(人) (12600人) <前> <後> 300人(1) 1800人(1) 600 (1) 2000人(2) 800 (1) 5800人(1)F 1600 (1) 1700 (1) 1800 (1)
43回	京都府	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成は、伝芸-中学生-婦人ジャズ-小学生-婦人・スボーツ少年団-スボーツ伝統芸能の配列</li> <li>京都の歴史性の示すような琴尺八、民謡、郷土芸能</li> <li>武芸、剣道なども取り入れられている。</li> <li>小学、中学ではのテーマの表現・ダンスが多い。</li> <li>*先催県よりも芸術性や地域性を重視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学-幼児-高校-マーチング-フィナレの順序である。</li> <li>マーチングを加えてより多彩になっている。</li> <li>フィナレ前にマーチングを位置づけている点(フィナレ準備のしやすさとも思われる)</li> <li>高校演技のトランポリンとの組み合わせも特徴的である。</li> </ul>	6>5 (計11個)	60>40 (計100分) <前> <後> 5分(1) 5分(1) 9分(2) 8分(3) 10分(1) 11分(1) 11分(1) 16分(1)	7300>4300(人) (12300人) <前> <後> 300人(1) 500人(1) 800 (1) 900人(1) 1350 (1) 1750人(1) 1450 (1) 1850人(1) 1700 (2) 4300人(1)F
44回	北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成は大学生ダンス-伝統芸能婦人-3世代-高校生の順である。</li> <li>出演部門中、大学生及び3世代が特徴的である。</li> <li>郷土芸能、民謡も地域性のあるものが多い。</li> <li>マーチングも恒例化しておる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高校生-幼児-小学生-高校生-フィナレ</li> <li>先催県では式典後は単独が多かったが、中高の組合せ出演が特徴的である。</li> </ul>	5=5 (計10)	60>40 (計100分) <前> <後> 10分(3) 6分(1) 15分(2) 7分(2) 10分(2)	3900<6250(人) (10150人) <前> <後> 220人(1) 800人(1) 430 (1) 1600人(1) 700 (1) 1700人(1) 990 (1) 2150人(1) 6250人(1)F



## 2)-2 演技個数の配列比について

各開催県の式典前後の演技数及び配分比については、演技時間と関係して演技全体の流れを決める上で大切な要因になる。第41回から49回までの全体の演技数は、8個から11個で、石川国体のみ19個と2倍である。年代的な推移も46回で大きく変わるがその他は8から11個を上下し大きな変化はない。

また式典前の演技数は、4個から6個である（石川国体は10個である）。式典後の演技数は、4個から5個である（石川国体は9個である）。

式典前後の演技数の配分比は、6対4（41・42・48回）、6対5（43回）、10対9（46回）で式典前の方が多い場合と、4対4（44・45・47回）、5対5（49回）の結果で同一数の場合である。これらは、各開催県供演技の実施者数、動員団体の動員数などの問題や、演技を見る方の演技への引きつけられる時間やその長さなどからも決められるべきものであることから演技全体の配列とともに評価に影響する要因と考えられる。

## 2)-3 演技時間について

41回から49回までの集団演技の式典前後の時間の傾向は、式典前後通じての演技の全体時間は、90分から120分であり、分布は120分（41・42回）、110分（46回）、100分<4県（43・44・47・48回）>、90分<2県（45・48回）>であった。全体時間の推移は、41回42回は120分、以降43回・44回は100分となり、45回は90分、46回は110分、47回は100分、48回は90分、49回は100分と100分前後に安定している。

式典前後の演技時間は、表II-6から、41回、42回が（80分対40分<2:1>）、43回・44回は60分対40分<1.5:1>、45回が（50分対40分

<1.25:1>）、46回（60分対50分<1.2:1>）、47回は（50分対50分<1:1>）、48回が（50分対40分<1.25:1>）、49回（60分対40分<1.5:1>）となっている。式典前後の配分は、一部を除き式典前が後に対して1.2倍から最高2倍までの場合があり、式典前が多く配分される傾向にある。時間の配分は、式典前後の演技のバランスや演技構想からの式典前後の課題や演技の盛り上げのピークのタイミングなどとも関連しており是非配慮されるべき点である。

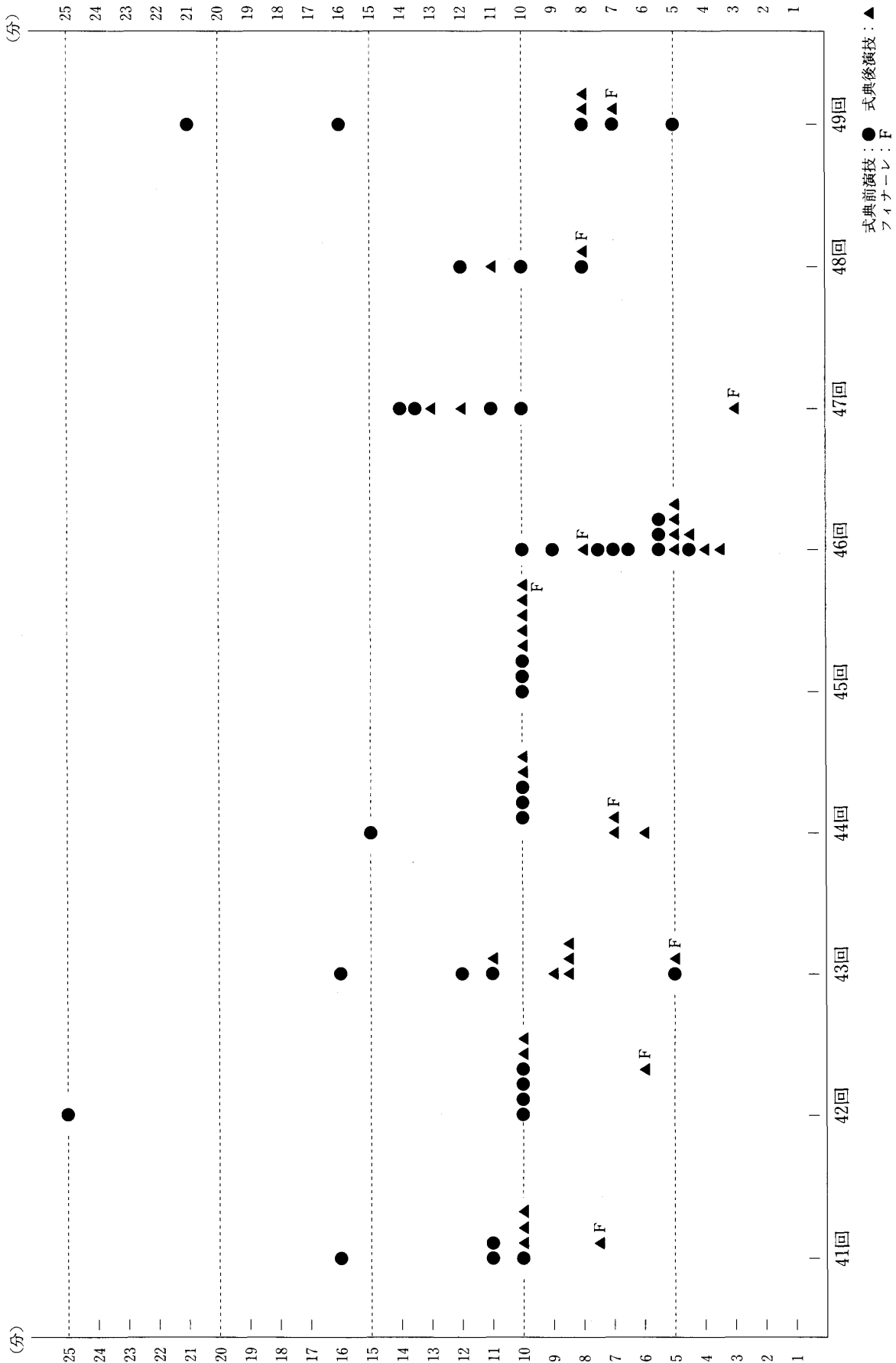
演技時間の分布は、41回から49回まで開催県別に図1に示されている。図より各開催県毎に、演技構成により演技時間は異なり、部門毎の演技時間も異なる傾向にある。演技時間は、10分間程度に設定される場合が多い。各開催県別の演技時間傾向については、41回、42回、45回の傾向が類似し、43回、47回、48回が類似している。式典前後の演技時間は、国体式典関係の時間規定や県毎の特性もあるが、式典前に10分以上の演技が組まれることが多く、それに対して式典後については、天覧の事情により時間の指定もあり、しかも式典の盛り上がり形成するだけの演技内容と演技規模を設定するために10分程度の時間に組まれることが多い。県別の特性を見ると、41回・42回・44回・45回は一部の演技を除き10分程度の演技時間である。43回・46回・47回・48回・49回と固定時間が少なく部門に合わせた時間設定が行われている。演技時間で特徴的な県は、46回石川県で、他県と比較して演技の時間が極めて少ない。これは、参加部門数の多さや演技規模の小ささにも関連していると思われる。

式典後の最後に組まれているフィナーレの時間については、3分から10分までの演技内容で多少異なり、その多くは7分から8分間である。

〈表II-6〉各開催県別の式典前後の演技時間配分

時 間	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回
式典前(分)	80	80	60	60	50	60	50	50	60
式典後(分)	40	40	40	40	40	50	50	40	40
時間配分比 (前/後)	2:1	2:1	1.5:1	1.5:1	1.25:1	1.2:1	1:1	1.25:1	1.5:1





〈図1〉 第41回から49回までの国体集団演技の開催県別演技時間分布

この時間設定内で、入場、整列、全体演技、人文字の演技などが展開される。

#### 2)-4 演技規模（演技人数）について

図2は、41回から49回までの部門毎の演技規模の分布を示したものである。

- (1) 開催県別の演技者数分布の傾向は、演技の多くが500人から1000人と1500から2000人に分布し、それ以外は広く分散している。但し、演技規模は、各開催県で演技の特性から分布傾向が異なっている。開催県別の分布特性は41回から45回までと、48回規模の分散傾向が類似している。46回石川県は、他県に比べると全演技が小規模である（200-1400人）。47回山形県は、参加部門の特性もありすべてが900人以上の大規模設定である（900-3500人）。49回の愛知県は、400人から最高3500人の設定であり、規模に広がりが見られる。
- (2) 式典前後の部門毎の規模については、開催県で多少異なるが、式典後の方が規模が多い傾向である。演技の盛り上がりのためや、多集団によるアピール性、演技内容の構成による多人数の必要性などの意味があろう。
- (3) 演技規模を部門別に見ると、伝統芸能やマーチングなどの特殊集団や技能の高さが求められる集団は規模は小さい。また、幼児、小学校、中学校、高校などの教育系集団は、規模が2000-3000人などのように規模が大きい。これは、多人数の動員性、演技練習過程の学習能力、高い技能の習得の可能性などで選択されるものと思われる。

表II-7は41回から49回集団演技の式典前後の演技人数配分を示したものである。表より、式典前後の演技人数は、全体で9,100から14,200人であり、分布を見ると9,000人台、<(1県)47回>、10,000人台<(3県)44・45・48回>、12,000人台<(4県)、41・42・43・46回>、14,000人台<(1県)、49回>であり、多くは、1万人から1万2千人程度の動員数である。式典前後の演技者数の比較は、式典前が式典後より多い場合（42・43・46・48・49回）で、とりわけ、43回、49回が多い。また、式典前より式典後が

多い場合（41・44・45・47回）であった。

フィナーレ人数規模は、図2より、3,700人-6,300人である。41回、42回、44回、45回は6,000人程度で大規模動員である。これはフィールドでの演技に加え、トラックでの演技も考慮された演技内容のためである。他人数の動員は、演技内容として布による国体の開催県のシンボルなどを形成する人文字形成やその準備としての演技の実施のために不可欠であろう。

#### 3) 第41回から49回まで国体集団演技における手具、大型器具、服飾、演技内容の傾向について

##### 3)-1 集団演技に利用されている手具の傾向

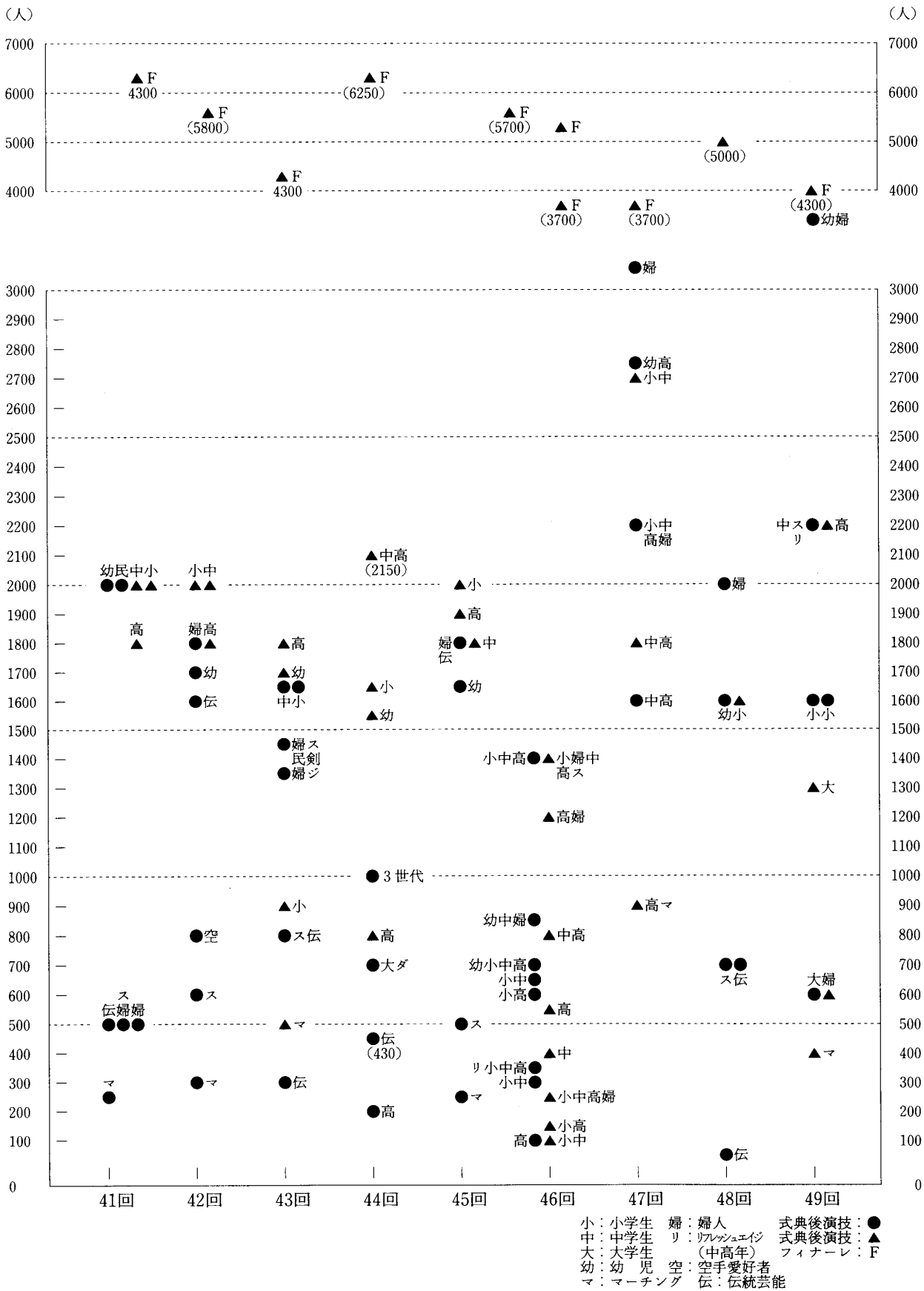
###### (1) 男女の手具の利用の有無

表III-1は、男子の演技で利用された手具の利用頻度を示したものである。手具の使用の有無については、有り(N=111)〈68.098%〉、その他(N=21)〈12.883%〉、無し(N=8)〈4.908%〉、非該当(N=23)〈14.110%〉である。一方女性は、有り(N=142)〈79.775%〉、その他(N=22)〈12.360%〉、無し(N=10)〈6.180%〉、非該当(N=4)〈2.247%〉である。結果から男女何れも手具利用「有り」と「その他(設定項目に無いもの)」を合わせると男子(N=132)〈80.981%〉、女子(N=164)〈92.134%〉で使用するケースが多い傾向にあった。これは、演技の構想上の表現性(素材を具体化するもの)や手具による色彩の強化や補足、表現性の充実、また実施者側の動き具体化や動きの動機づけなど、手具や器具を利用する価値は大きいと思われる。

###### (2) 手具の利用頻度及び内容について

表III-2は、41回から49回集団演技の手具の利用頻度の集計結果を示したものである。

男子の傾向では、利用頻度の多いものをあげると、布(N=25)、バチ(N=8)、ポンポン・旗・手袋・竹刀(N=5)、輪・扇・太鼓(リズム太鼓)・スポーツ用ボール・リュック・木の枝(N=4)、ボール・棒・花笠(N=3)、縄・ロープ・パネル(カラーパネル)、綱、のぼり(N=2)であった。



〈図2〉 第41回から49回までの国体集団演技の開催県別演技規模（人数）の分布

〈表Ⅱ-7〉各開催県別の式典前後の演技規模（人数）配分

	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回
式典前(人)	5758	6800	7300	3900	4300	5930	3500	5600	9900
式典後(人)	6300	5800	4300	6250	5700	5031	5600	5000	4300
合計(人)	12058	12600	12600	10150	10000	10961	9100	10600	14200

〈表Ⅲ-1〉男女の手具の利用の有無

	有り	(その他)	無し	非該当	計
男子	111 (68.098%)	21 (12.883%)	8 (4.908%)	23 (14.11%)	163
女子	142 (79.775%)	22 (12.360%)	10 (6.180%)	4 (2.247%)	178

上記の手具利用の結果を、手具の特性別に一般的手具(一般的に利用されているもの)、音がでる手具(音がでるもの)、付属品や特殊な手具(手具的な働きは無いが補足的な使い方やめったに利用されないもの)の3カテゴリーに分け見てみることにした。

(一般手具について)

これは、現行の体育、スポーツで用いられる代表的な手具である。〈カテゴリー1〉から16)まで)。

- ① 布(N=25)は、表現性の豊かさ、布が風になびくさまが美しい、色彩が豊で、軽量、携帯性に優れているなどの点で利用される頻度が高い。
- ② ポンポン・旗(N=5)は、前者は、華やかさ、軽いなど、後者は、テーマの宣伝、文字などを記入できる等で効果的である。
- ③ 輪、扇(N=4)は、輪は空間を大きく捉えられ、軽量、持ち易いなどの点で、また、扇は、小さい、持ち易い、携帯できかくせるなどの点で優れている。
- ④ ボール・棒(N=3)は、一般に良く普及している、男子向きな手具である。とりわけ棒は直線的で、変形せず、堅いイメージで、立体的な空間形成も可能ということで男性むけの手具と言える。
- ⑤ 縄(ロープ)・パネル(カラーパネル)(N=2)は、縄は一般的な体育スポーツの手具とし

て普及率が高いが集団演技では利用率が低い。パネルは演技での利用頻度は少ないが、演技時に変色などの点や立体的な演出も可能という点で効果的と思われる。

- ⑥ 棍棒・大布・带状布(リボン)・ゴーズ(N=1)は、のびのびと動きを引き出せる。動きの楽しさを増す手段として効果的である。

(音がでる手具について)

音がでる手具(カテゴリー16)-20))は、伴奏音楽との協調や見る人のアピール、演技者同志の協同性などの意味を持つものである。

- ① バチ(N=8)は、太鼓との関連で用いられる
- ② 太鼓・リズム太鼓(N=4)は、太鼓は伝統芸能などと一緒に、また、リズム太鼓は、ダンス的な動きとともに使われ、動きを引きだす効果がある。
- ③ 和太鼓(N=2)は、伝統芸能など勇壮な響きをかなでる。国体集団演技では、各県に見られる郷土芸能や音楽との関係や地域の民謡との関係での役割は大きいものものと言えよう。
- ④ 拍子木(N=1)は、他の楽器との関係で調子をとることに使われると思われる。

(付属品や特別な手具器具について)

手具としての利用する色彩よりは、服飾の付属や演技のストーリーの人物を指定したり、場面を表現するために使われる特別例である。傾向

〈表III-2〉集団演技における手具の利用頻度(男女)

	手具用具の項目	男子(件)	女子(件)
一般的手具	1) ボール	3	3
	2) ギムニク	0	1
	3) 輪・ソフトリング	4	5
	4) 棍棒	1	1
	5) 棒	3	2
	6) 長棒	0	0
	7) 縄・ロープ	2	2
	8) 布	25	31
	9) 大布	1	3
	10) 带状布・リボン	1	1
	11) ゴーズ	1	1
	12) ポンポン	5	13
	13) 旗・県旗・市町村旗	5	14
	14) パネル・カラーパネル	2	2
	15) 扇	4	8
音がでる手具	16) 太鼓・リズム太鼓	4	5
	17) 和太鼓	2	2
	18) タンバリン	0	0
	19) バチ	8	8
	20) 拍子木	1	1
付属品や特殊な手具	21) ハンカチ	1	2
	22) 手ぬぐい	0	0
	23) グラブ	1	1
	24) スポーツ用ボール	4	4
	25) 竹刀	4	4
	26) リュックサック	4	4
	27) 毛槍	0	1
	28) 手袋	5	5
	29) ボール	0	0
	30) 綱	2	2
	31) 木の枝	4	4
	32) ギター	1	1
	33) 鈴振り	1	0
	34) 金剛杖	1	2
	35) のぼり	2	2
	36) 旗さしもの	1	1
	37) 花笠	3	3
	38) 鍬	1	1
	39) 鎌	1	1
	40) むしろ旗	1	1
	41) 御輿	1	0
	42) 大旗	1	0
	43) 糸塵	0	0
	44) その他	21	22
	手具無し	8	10
	不明	23	4
	合計	164	178

は次の通りである。

① 手袋 (N=5) は、男女供服飾の補足や装飾的な意図で用いられるものと思われる。

② 竹刀・リュックサック・木のえだ、竹・花笠・スポーツ用ボール (N=4)

竹刀は、武芸に、リュックサックは替えの衣装や演技で用いるゴーズ等を入れたために、木の枝はストーリーの演出に、花笠は民謡に合わせて使われている。

③ のぼり・綱 (N=2) は、戦国時代の戦闘や、狩猟の場の表現などで使われている。

④ ハンカチ、小布・ギター・鈴振り・金剛杖・旗さし物・鍬・鎌・グラブ・むしろ旗・御輿・大旗・糸塵 (N=1)

女子の手具利用の全体傾向 (表III-2) は、布 (N=31)、旗 (N=14)、ポンポン (N=13)、扇・バチ (N=8)、輪・太鼓・手袋 (N=5)、スポーツ用ボール・竹刀・リュックサック・木の枝 (N=4) であった。

女子の手具の特性分類からみた利用の傾向を以下に述べる。

(一般手具について)

① 布 (N=31) は、男子同様利用頻度が高い。表現性の豊かさ、布が風になびくさまが美しい、色彩が豊で、軽量、携帯性に優れているなどの点で利用される女性には最適な手具であろう。

② 旗 (N=14) は、マーチング演技のカラガード隊などが用い、回す、回転や投げの動きなどが美しく映える。

③ ポンポン (N=13) は、マーチングバンドがバトンと併用して使うケースが多い。

④ 扇 (N=8) は、女性の民謡、踊りの際に用いられ、演技の表現や衣装を補足するなどの点で優れており、また、持ち易い、携帯でき、隠せるなどの点でも利用価値が多い。

⑤ 輪・ソフトリング (N=5) は、女性的な曲線的な表現と空間を大きく捉えられ、しかも軽く持ち易いなどの利点がある。

⑥ 大布・ボール (N=3) は、普及率が高い。大布は、ゴーズの使い方の様な空間の表現の他に、色を替えたり、布をクロスしたりする

ことにより多彩な大きな表現が可能となる。

- ⑦ 棒・縄・パネル (N=2) は、利用頻度がなかった。
- ⑧ ギム尼克・棍棒・带状布 (N=1) は利用頻度が低い。ただし、ギムニックの利用は運動内容の多彩なものであり表現性の豊かなものとして導入が期待されよう。

(音がでる手具について)

音がでる手具(カテゴリ-16)-20))は、伴奏法音楽との協調や見る人のアピール、演技者同志の協同性などの意味を持つ。女子の利用傾向は、(1)バチ (N=8), (2)太鼓・リズム太鼓 (N=5), (3)和太鼓 (N=2), (4)拍子木 (N=1) であり、利用内容は、男子の傾向と同様である。

(附属品や特別な手具について)

手具としての利用する色彩よりは、服飾の附属や演技のストーリーの人物を指定したり、場面を表現するために使われる特別例である。各頻度は次の示す通りである。

- ① 手袋 (N=5) は、演技の表現の一部で、また衣装の付加的な表現で使われる。
- ② 竹刀・リュックサック・木のえだ、竹・花笠 (N=3)

竹刀は、武芸に、リュックサックは衣装や、ゴーズ等をいれるために、木の枝はストーリーの演出に、花笠は民謡に合わせて使われている。

- ③ ハンカチ、小布・網・金剛杖・のぼり (N=2)の内、ハンカチは衣装の補足的な装飾として、その他は歴史的な史実の演出としての意味を持つものである。
- ④ グラブ・毛槍・ギター・旗さしもの・鍬・鎌・むしろ旗 (N=1)のうち、グラブはスポーツ場面の演出として、その他は、歴史的な展開の中で用いられている。

手具はマスゲームの体操だけでなくダンスなどに布、扇、カスタネット、風船、花をつけた竹の棒などの利用の事実も<sup>3)</sup>あり、利用価値の高い手具が期待される。

(3) 集団演技の手具の9年間の経年的変化について

表III-3 a 及び表III-3 b は、第41回から49回までの国体集団演技に見られる男女の手具の

9年間の経年的変化を示したものである。表より、9年間で利用頻度の多いもので経年的な変化を追うことができる手具の傾向は次に示す通りである。

(男子の傾向) <( ) 内数値は件数>

- (1) 布 (25) ……41回から49回まで連続使用
- (2) バチ (8) ……42回から49回まで連続使用
- (3) ポンポン (5) ……42から48回まで連続使用  
旗 (5) ……42・46・49回で使用  
竹刀 (5) ……41・43・46回で使用  
手袋 (5) ……42・43・44・46回で使用  
輪 (5) ……41回から44回まで連続使用
- (4) 扇 (4) ……46・49回で使用  
太鼓 (4) ……42・46回で使用  
スポーツボール(4) 41・42・44・48回で使用  
リュックサック(4) 43・44・48・49回で使用  
木の枝 (4) ……42・43・46回で使用

(女子の傾向) <( ) 内数値は件数>

- (1) 布 (31) ……41回から49回まで連続使用
- (2) 旗 (14) ……41回から49回まで連続使用
- (3) ポンポン (13) ……41から49回まで連続使用
- (4) バチ (8) ……42・43・44・46・48回で使用  
扇 (8) ……42・43・44・46・48回で使用
- (5) 輪 (5) ……42・46・49回で使用  
太鼓 (5) ……42・46・49回で使用  
手袋 (5) ……42・43・44・46回で使用  
スポーツボール(5) 41・42・44・48回で使用
- (6) 竹刀 (4) ……43・46回で使用  
リュックサック(4) 43・44・48・49回で使用  
木の枝 (4) ……42・43・46回で使用

<表III-3a> 41回から49回の集団演技における手具の利用変化 (男子)

手具用具の項目		回	41	42	43	44	45	46	47	48	49	合計
一 般 的 手 具	1) ボール				1		1	1				3
	2) ギムニク											0
	3) 輪・ソフトリング	1	1	1	1							4
	4) 棍棒							1				1
	5) 棒		1				1				1	3
	6) 長棒											0
	7) 縄・ロープ						1	1				2
	8) 布	3	1	5	5	2	3	1	3	2	25	
	9) 大布										1	1
	10) 带状布・リボン					1						1
	11) ゴース										1	1
	12) ボンボン		1			1		1	1	1		5
	13) 旗・県旗・市町村旗		1					3	1			5
	14) パネル・カラーパネル						2					2
	15) 扇		1					3				4
音 が で る 手 具	16) 太鼓・リズム太鼓		1					3				4
	17) 和太鼓					1				1		2
	18) タンバリン											0
	19) バチ		1	2	1		2		2			8
	20) 拍子木							1				1
付 属 品 や 特 殊 な 手 具	21) ハンカチ							1				1
	22) 手ぬぐい											0
	23) グラブ							1				1
	24) スポーツ用ボール	1	1		1					1		4
	25) 竹刀	1		1			3					5
	26) リュックサック			1	1					1	1	4
	27) 毛槍											0
	28) 手袋		1	1	2		1					5
	29) ボール											0
	30) 綱		1				1					2
	31) 木の枝		1	1			2					4
	32) ギター						1					1
	33) 鈴振り						1					1
	34) 金剛杖						1					1
	35) のぼり						1			1		2
	36) 旗さしもの						1					1
	37) 花笠		1				1	1				3
	38) 鍬						1					1
	39) 鎌						1					1
	40) むしろ旗						1					1
41) 御輿										1	1	
42) 大旗										1	1	
43) 糸塵											0	
44) その他	0	5	5	1	0	5	0	4	1		21	
手具無し	1	1	0	0	0	2	2	1	1		8	
不明	4	2	2	3	2	1	3	2	4		23	

(数字は件数)

〈表III-3b〉 41回から49回の集団演技における手具の利用変化 (女子)

	手具用具の項目	回	41	42	43	44	45	46	47	48	49	合計
一 般 的 手 具	1) ボール				1		1	1				3
	2) ギムニク										1	1
	3) 輪・ソフトリング	1	2	1	1							5
	4) 棍棒							1				1
	5) 棒		1				1					2
	6) 長棒											0
	7) 縄・ロープ						1	1				2
	8) 布	3	2	5	5	3	4	3	4	2		31
	9) 大布		2								1	3
	10) 带状布・リボン					1						1
	11) ゴーズ										1	1
	12) ボンボン	2	2	1	1	2	1	1	1	1	2	13
	13) 旗・県旗・市町村旗	1	2	1	1	1	1	4	2	1	1	14
	14) パネル・カラーパネル						2					2
	15) 扇		1	1			1	3		1	1	8
音 が で る 手 具	16) 太鼓・リズム太鼓		1					3			1	5
	17) 和太鼓					1				1		2
	18) タンバリン											0
	19) パチ		1	2	1			2		2		8
	20) 拍子木							1				1
付 属 品 や 特 殊 な 手 具	21) ハンカチ							1			1	2
	22) 手ぬぐい											0
	23) グラブ							1				1
	24) スポーツ用ボール	1	1		1					1		4
	25) 竹刀			1				3				4
	26) リュックサック			1	1					1	1	4
	27) 毛槍										1	1
	28) 手袋		1	1	2		1					5
	29) ボール											0
	30) 綱		1					1				2
	31) 木の枝		1	1				2				4
	32) ギター							1				1
	33) 鈴振り							1				1
	34) 金剛杖							2				2
	35) のぼり							1			1	2
	36) 旗さしもの							1				1
	37) 花笠		1					1	1			3
	38) 鍬							1				1
	39) 鎌							1				1
	40) むしろ旗							1				1
	41) 御輿											0
	42) 大旗											0
	43) 糸塵											0
	44) その他	2	3	6	1	2	4	0	3	1		22
手具無し	0	1	0	2	2	2	3	3	0	2	12	
不明合計	2	2	2	3	2	1	3	2	4		21	

(数字：件数)



これらから、頻度が高く9年間の継続して用いられているものとしては、男子では、布、バチ、ポンポンなどであり、女子では、布、旗、ポンポン、バチ、扇などであった。これら以外は断続的な使用状況であった。布は、前述の9年間の頻度結果の演技の表現性、演技者の携帯性、経済性などの点で優れていることを示し、演技内容でもダンス表現系や体操系でも、またフィナーレのシンボル表現などにも使用されていることから多彩な用途のある手具と言えよう。バチは、郷土芸能での太鼓などでの使用或いはダンス表現でのリズム太鼓との併用使用である。また本来は音がでる携帯性のある用具としても価値のあるものと思われる。ポンポンは、主にマーチングバンドの祭のバトントワリングでの使用や一部子供の演技に使用されている。扇は、とりわけ女子婦人の郷土芸能や民謡で使われるケースが多いように思われる。

また、開催県別の手具使用の傾向及び手具のカテゴリー別の内容の使用傾向については、表III-4に示す通りである。

手具利用の頻度の傾向は、開催県により異なり、男子では、4件から42件まで、女子では7件から43件の変化が見られる。利用に頻度(〈〉内件数)については、男子の場合、46回(石川)〈42〉、43回京都〈19〉、42回(沖縄)〈17〉、44回北海道〈14〉、48回(東四国)〈13〉、49回(愛知)〈12〉、45回〈9〉、41回山梨〈6〉、

47回山形〈4〉である。一方女子の場合は、46回(石川)〈43件〉、42回沖縄・43回京都〈22〉、44回北海道〈16〉、48回(東四国)・49回(愛知)〈15〉、45回〈14〉、41回山梨〈10〉、47回山形〈7〉である。手具の利用頻度は9年間で連続して女子利用頻度が高い傾向にあった。これは、女子の演技が表現ダンス系の内容が多いことや、表現が多彩になっていること、色彩の上で手具器具が大きな役割を果たすようになっていくこと、多彩な手具の開発などが影響しているものと思われる。46回〈42〉は、他県に比べて演技構成が異なり演技題数も極端に多く、国内外の地域特性の表現から手具用具の利用が高いものと思われ、一方47回〈4〉のように表現ダンス系或いは構想を受けた手具利用の無い演技を主体とする場合など開催県の演技構想、演技内容などの差異により極端な傾向の違いがでるものと思われる(表I-1から表I-4参照)。手具用具利用の内容のカテゴリーの傾向は、頻度の差異はあるが、一般的手具、付属・装飾的なもの、音がでるもの順である(但し、石川県を除く)。これらの経年的な変化の傾向はなく、開催県で異なる傾向を示した。

3)-2 大型器具の利用

演技に用いられる大型器具は、国体以外のマスメディアでも見られ、演技のできばえを高めたり、小型の手具にない規模の大きい演技や演技展開ができるなどその効果は大きい。

〈表III-4〉各開催県集团演技の手具の利用傾向及び手具のカテゴリー別の利用傾向

開催回	一般手具		音がでる		付属装飾		その他		合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
41	4	7	0	0	2	1	0	2	6	10
42	6	12	1	2	5	5	5	3	17	22
43	7	10	2	2	5	4	5	6	19	22
44	8	9	1	2	4	4	1	1	14	16
45	7	12	0	0	0	0	2	2	9	14
46	16	15	3	6	18	18	5	4	42	43
47	3	6	0	0	1	1	0	0	4	7
48	4	7	3	3	2	2	4	3	13	15
49	7	9	0	1	4	4	1	1	12	15

(数字は件数)

表Ⅲ-5は、41から49回までの集団演技で利用された大型器具の利用の有無を示したものである。大型器具の利用は、男子が24.48%、女子が19.58%であり、手具用具に比べると利用頻度が低い傾向にあった。

表Ⅲ-6は、9年間国体集団演技における演技の大型器具の内容、頻度についてみたものである。大型器具のカテゴリーは、マット、跳箱、鉄棒、三角鉄棒、梯子、ラート、鉄輪、メリー

〈表Ⅲ-5〉 集団演技の大型器具の利用の有無

	有り	有(その他)	無し	計
男子	8 (8.163%)	16 (16.327%)	74 (75.510%)	98
女子	5 (5.154%)	15 (15.464%)	77 (79.381%)	97

(数字は件数)

その他内容	男子	女子
パラバルーン	7	6
ゴール	2	2
トランポリン	2	2
ゴール	2	0
ボール	0	2
ハンドボールゴールとバレーボール白線とネット	0	0
岩と恐竜	1	1
縄文の土器	1	1

〈表Ⅲ-6〉 集団演技における大型器具の利用頻度 (男女)

	大型器具の項目	男子(件)	女子(件)
大型器具利用有り	1) マット	1	1
	2) 跳箱	0	0
	3) 鉄棒	0	0
	4) 三角鉄棒	1	0
	5) 梯子	2	0
	6) ラート	1	1
	7) 鉄輪	0	0
	8) メリーゴーランド	1	1
	9) 円形支柱	0	0
	10) オール	2	2
	11) その他	16	15
	利用無し	74	77
	合計	98	97

ゴーランド、オールなどが設けられた。以下、男女別に大型器具の傾向を見てゆくことにする。

男子に見られる大型器具の内容については、梯子、オール(N=2)、マット、三角鉄棒、ラート、メリーゴーランド、その他(N=16)であり、一般的な手具に比べると頻度が少ない。設定項目外のその他内訳は、パラバルーン(N=7)、ゴール(N=2)、ハンドボールゴールとバレーボール白線とネット(N=1)、トランポリン(N=3)、ボール(N=1)、岩と恐竜(N=1)、縄文の御輿(N=1)である。利用頻度の順は、パラバルーン(N=7)、梯子(N=2)、ゴール(N=2)、トランポリン(N=2)、マット・三角鉄棒・ラート・メリーゴーランド・オール、ハンドボールゴールとバレーボール白線とネット・岩と恐竜・縄文の御輿(N=1)である。

個々の器具について見ると、最も利用頻度の多いパラバルーンは、幼児や小学校部門の演技で利用されるケースが多く、対象年齢は低くても指導者との共同であれば、軽くしかも取り扱いが簡単であり、利用によって色合い(色彩の強調)、空間が大きくとらえられ、携帯が便利など利用価値が大きい。演技の内容も持って回転する、中に入って膨らませる球を形成するなどその利用は多様である。梯子は、福岡県高校男子の図形形成<sup>その他2-(3)</sup>やピラミッド形成のための使用や文字の形成などや、愛知県の大学男子の演技<sup>その他2-(7)</sup>のように梯子による図形形成や梯子を数本組み合わせた立体的な塔の形成など器具の大きさ、空間の立体性を表現する器具としての意味を持つものと言えよう。ゴール及びハンドボールゴール・バレーボールの白線ネットとゴールは、演技内でサッカーやバレーボールなどスポーツを実際に演技するケース<sup>その他2-(3)</sup>があり、演技の必要とされる器具である。三角鉄棒は愛知県高校生男子の演技<sup>その他2-(4)</sup>に見られ、鉄性の三角形の頂点に鉄棒を渡した器具であり、支柱の下部を20名程度で立位か座位で支える中、鉄棒の演技が可能である(49回愛知国体では大車輪が演技された)。ラートはドイツで生まれ、長身大の鉄輪が2つ

連結されているもので、輪の中に人が入り直転、斜転など多彩な動きができ、ドイツの体操祭のマスゲームなどでの利用も多く見受けられる。ラートの導入は国体集団演技では、愛知県の大学部門が初めてであり、ラートの直転、斜転、2人組などの基本的な運動内容から高度な演技内容まで好評を博したものである。メリーゴーランドは、幼児部門に利用され中央に支柱があり、その支柱を中心に長い布が放射状に広げられるものである(愛知県小学生)。オールは石川国体の際に使われるスポーツ種目ボートの演技の表現に利用されるものである。マットは、マット運動の演技で使用されるケースは少なく、マットの単独での利用よりは、トランポリンなどのスポーツ種目の補助具として利用されている。トランポリンは、他の演技と平行に石川県での小型トランポリンを連携させての連続演技に利用された。人が身長以上に空中にあがる可能性が少ない演技の中で人目をひく演技器具である。岩と恐竜(1)、縄文の御輿(1)は石川国体時に原始時代からの歴史を表現する中で利用されたものであり、他に無い珍しい演出的な器具の工夫である(その他<sup>2-4</sup>)。ポールは支柱としての役割である。

女子に見られる大型器具の内容については、マット、ラート、メリーゴーランド、オール(N=1)、その他(N=15)であり、男子よりもさらに頻度が少ない。その他内訳は、パラバルーン(N=6)、ゴール(N=2)、ハンドボールゴールとバレーボール白線とネット(N=1)、トランポリン(N=2)、ポール<立体構成用ポールも含む(1)>(N=2)、岩と恐竜(N=1)、縄文の御輿(N=1)である。利用頻度の順は、パラバルーン(N=7)、ゴール(N=2)、トランポリン(N=2)、マット・三角鉄棒・ラート・メリーゴーランド・オール、ハンドボールゴールとバレーボール白線とネット・岩と恐竜・縄文の御輿(N=1)である。

女子の特性を考えると大型器具は、女性にとって表現の可能性を制限したり、携帯性に欠け、練習がしづらいなど不適切なところがある。大型器具の利用の意義は、表現の大きさ、空間表現の大きさ、男性的な表現の可能性など

利用価値は大きく、演技が高度化し、さまざまな演出もなされる中で導入が望まれる。但し、大型器具は、作成や入手の経済性、持つときの携帯性、練習及び演技時の安全度や注意度、入退場の際の空間の限界、格納や準備の手間など不合理な点も考慮されねばならないであろう。

### 3)-3 演技の服飾について

集団演技に用いられる服飾(衣装)は、一般的衣装の機能に加えて、演技の構想のイメージを衣装の工夫や色の類似により表現したり、構成演技の色彩を決定する上での大きな要素となる。

表III-7は、第41回から49回国体集団演技の演技で用いられた服飾の利用頻度を男女別に示したものである。演技の服飾については、演技に必要なとされる本衣装の他に、シューズ及び付属品類などが含まれる。衣装には55カテゴリーが設けられている。具体的には上着類<1-14>、下着類<15-26>、ソックス類<27-29>、シューズ類<30-31>、付属類<32-45>、一般的でない特殊衣装類<46-54>、その他<55>である。以下、男女別に服飾の傾向を述べことにする。

#### (1) 男子の服飾について

##### ① 上着類について

上着類の内容及び利用傾向については、Tシャツ<半袖シャツ>(N=32)、ランニング、ハッピー(N=4)、マント(N=3)、着物(N=2)、レオタード、色替え半袖シャツ、ワンピース、トレーナー、長袖ウェア、カップ(N=1)であった。また、上着その他(N=10)の具体的内容については、紅型(1)、上衣(2)、紋付き(1)、フード付きシャツ(1)、袖付き上衣(1)、はんでん(1)、袴(3)である。

上着の利用頻度については、Tシャツが頻度が最も高く、以下準じてランニング、マントである。Tシャツ及びランニングは、着易い、使いやすさ、安価であり、装飾がしやすいなどの利点があり利用される可能性が高いと思われる。

##### ② 下着類の利用傾向については、短パン・

〈表Ⅲ-7〉 集団演技における服飾の利用頻度 (男女)

	服飾の項目	男子(件)	女子(件)
上 着 類	1) レオタード	1	17
	2) Tシャツ	32	26
	3) 色換え半袖シャツ	1	1
	4) ワンピース	1	1
	5) ランニング	4	1
	6) トレーナー	1	1
	7) 長袖ウェア	1	1
	8) マーチングユニフォーム	0	9
	9) マント	3	3
	10) ハッピ	4	3
	11) 着物	2	8
	12) スポーツ関係着	2	2
	13) カップ	1	1
	14) 上着その他	10	11
下 着 類	15) スカート	0	7
	16) 巻きスカート	0	4
	17) スパッツ	3	7
	18) パッチ	1	1
	19) トレーナー	2	1
	20) 短パン・ショートパンツ	34	27
	21) ロングパンツ	2	1
	22) キュロット	0	1
	23) じゅばん	1	2
	24) 帯	2	2
	25) 脚半	1	2
26) 下着その他	8	7	
スト ック ン グ	27) ストッキング(タイツ)	6	7
	28) ソックス	8	8
	29) ハイソックス	4	4
シ ュ ー ズ	30) 足袋	6	6
	31) シューズ	20	25
付 属 類	32) スカーフ	0	2
	33) ケープ	3	5
	34) はちまき	4	3
	35) ヘアーバンド	2	1
	36) 手袋	2	2
	37) スコート	1	1
	38) 帽子	14	15
	39) 体育帽	0	0
	40) ウェストポーチ	2	2
	41) 羽	1	2
	42) おめん	1	1
	43) 花笠	2	3
	44) ドンブリ	1	1
	45) 付属類その他	3	4
	特 殊 衣 装	46) からすのえぼし	1
47) さおとめ姿		1	1
48) のら着		1	1
49) 民族衣装		4	4
50) 動物の扮装		2	2
51) ぬいぐるみ		1	1
52) 結婚衣装		1	1
53) 浴衣		2	3
54) 特殊その他		11	10
55) その他		17	19
	不明	21	21
	合計	259	304

ショートパンツ(N=34), スパッツ(N=3), トレーナー, ロングパンツ, 帯(N=2), パッチ, じゅばん, 脚半(N=1)であった。下着類その他(N=8)の具体的内容は, 体操ズボン(1), タイツ(1), 紺色の紐(1), 袴(4), スコート(1)であった。下着類で利用頻度及び内容は短パン・ショートパンツが最も多い。これは, 伝統的に体育授業で利用されるものではき易さ, 動き易さ, 経済性, 比較的多様な上着にあわせることができるなど利用頻度が高いことがうなずける。次いで現代感覚的で, 身体にフィットするスパッツも普及しつつあり, 帯・パッチ・襦袢・脚半・袴などの着物類も演技で利用されている。また利用によっては, トレーナー・ロングパンツ・体操ズボンやタイツなどの長い衣装も活用されている。上着と比較すると多様性に乏しい。

③ ソックス類の内容, 利用傾向は, ソックス(N=8), ストッキング(N=6), ハイソックス(N=4)であった。

ソックスは演技によっては使用しない場合が考えられるが, 衣装の多くは上下のウェアが主体となるが色合いや全体にアクセントを加えるなどソックス類も演技全体として意味を持つことになる。

④ シューズ類の利用傾向は, シューズ(N=20), 足袋(N=6)という結果であった。この場合には, 一般的なシューズも用いられるが, 経済性や軽さ, はき易さ, 演技衣装との調和などの関係から集団演技特性のシューズが用いられることも多いようである。

⑤ 付属品類についての利用傾向は, 帽子(N=14), ケープ(N=3), ヘアーバンド, 手袋, ウェストポーチ, 花笠(N=2), スコート, 羽, おめん, どんぶり(N=1)であり, 設定外その他(N=3)は, たすき(2), たっつけ袴(1)であった。付属品類は, 衣装の付加的な飾りや, 動きを助長する用具として意味を持つことになる。最も利用頻度の高い帽子は, 色合いを出す, 振ってアピールする, 色を替えるなどの有効性や安全性がある。またヘアーバンドや花笠なども同様の効果をもつ。

手袋は、衣装の一部としての活用と色合いや動きを大きくみせるために活用される。ウェストポーチは、替えの服装や演技に必要な小道具を入れるための利用として工夫されている。また、特殊なものでは、羽（特殊な民族衣装の一部か）、おめん、どんぶり、たすき、たっつけ袴などは伝統芸能や歴史的な演技で利用されるものである。

⑥ 特殊衣装（一般的な演技の衣装にない物を含む）は、民族衣装(N=4)、動物の扮装、浴衣、能楽衣装(N=2)、からすえぼし、さおとめ姿、のら着、ぬいぐるみ、結婚衣装(N=1)であった。その他(N=10)の具体的な内容は坂網舞法の服装、社交ダンス、宇ノ気音頭の浴衣、法衣、修験者の服装、もじりの服装、陣羽織り・足軽の衣装、股引き、頭巾であった。

⑦ その他(N=17)については、フィナーレ部門の衣装(N=10)及び、かんたんの能衣装(1)、幻想的なコスチューム(1)、三將の衣装(1)、金管バンドユニフォーム(1)、サンバの衣装・ボンボンの色彩がにあり衣装(1)、七尾まだらの衣装(1)であった。

(2) 女子の服飾について

① 上着類の内容及び利用頻度は、Tシャツ〈半袖シャツ〉(N=26)、レオタード(N=17)、マーチングユニフォーム(N=9)、着物(N=8)スポーツ関係着(N=2)、色替え半袖、ワンピース、ランニング、トレーナー、長袖シャツ、カップ(N=1)であった。また、上着その他(N=11)の具体例は、紅型(1)、上衣(2)、ノースリーブ(1)、紋付き(1)、フード付きシャツ(1)、袖付上衣(1)、はんでん(2)、袴(2)である。

上着については、Tシャツが頻度が最も高く、以下準じて女性らしくレオタードが多い。女性がかかなり広い年齢層にわたって体操やダンスなどの運動を行え、しかも女性的な表現を高めるには適した服装であると言えよう。マーチングなどの特殊団体のユニフォームも各開催県で工夫された華麗な服飾であり、また、着物も女性の演技に多く見られ民謡やそ

れをアレンジした演技をひきたてるものである。それ以外は、男子の傾向とほぼ同様である。

② 下着類の内容の利用頻度は、短パン・ショートパンツ(N=27)、スパッツ、スカート(N=7)、じゅばん、帯、脚半(N=2)、パッチ、トレーナー、ロングパンツ、キュロット(N=1)であった。下着類その他(N=7)の具体的な内容は、ブルマー(1)、紺色の紐(1)、袴(3)、スコート(1)、ロングドレス(1)である。

下着類で利用頻度及び内容は男子同様短パン・ショートパンツが最も多い。女性の場合には、年齢の低い層（小学生や幼児など）に用いられるケースが多い。次いでスパッツ、スカートは、レオタードの利用が多い中で、上着との組合せやスパッツやスカート（特に巻きスカート）を組合せできるパターンも多い。今後も利用される可能性が多い組合せと言えよう。利用が少ないものでは、襦袢、帯、脚半、袴、紺色の紐、パッチなどの着物類や、トレーナー、ロングパンツ、キュロット、スコート、ブルマーなども見られる。

③ ソックス類の内容、利用頻度については、ソックス(N=8)、ストッキング・タイツ(N=7)、ハイソックス(N=4)であった。女性の場合には上下の衣装の関係で、特にレオタードなどとの関係でストッキングやソックスの利用があると考えられる。

④ シューズ類については、シューズ(N=25)、足袋(N=6)で男子と同様に結果であった。このシューズは、一般的なシューズから上下の衣類の色やつくりに合わせてシューズが特注で利用されるケースも多く演技に併せて考えられている。

⑤ 付属品類については、帽子(N=15)、ケープ(N=5)、はちまき・花笠(N=3)、スカーフ・手袋・ウェストポーチ・羽(N=2)、ヘアバンド、スコート、お面、どんぶり(N=1)であった。その他(N=4)は、たすき(1)、マタンブシ(1)、たっつけ袴(1)、踊り衣装(1)である。付属品類は、衣装の付加的な飾りや、動きを助長する用具として意味を

持つものである。利用頻度の内容は、男子の結果と大きく変わらず、はちまき、スカーフ、マタンブシなどが加わっている。

⑥ 特殊衣装は、民族衣装(N=4)、浴衣(N=3)、動物の扮装・からすえぼし(N=2)、さおとめ姿、のら着、ぬいぐるみ、結婚衣装(N=1)であった。その他(N=10)は、坂網舞法の服装(1)、社交ダンス(1)、宇ノ気音頭の浴衣(1)、法衣(1)、もじりの服装(1)、陣羽織り・足軽の衣装(1)、股引き(1)、手払い(1)、付下げ(1)、巫女の衣装(1)である。

⑦ その他(N=18)は、フィナーレ部門の衣装(N=10)及びドウジン(1)、かんたんの能衣装(1)、幻想的なコスチューム(1)、金管バンドユニフォーム(1)、サンバの衣装・ボンボンの色彩があう衣装(1)、七尾まだらの衣装(1)、洋装(1)、草履(1)である。

集団演技に用いられる服飾の男女の共通の傾向と男女差については、上着類は、男女ともTシャツが多いが、女子はレオタードの利用が同様に多いことが目立つ。下着類は、男女短パンが多いが男子は短パン、女子はスカート、スパッツが多い。ソックス類は、ソックス、ハイソックス、ストッキングなどが男女とも多い。シューズ類では、男女差なくシューズ、足袋である。附属品類では、男女帽子が多い。特殊衣装は民族衣装、浴衣などで目立った男女差は見られなかった。

### 3)-4 演技内容について

集団演技では、他の要因以上にテーマ、構想を受けての演技内容が演技の出来映えを左右する中核となる要因である。

(1) 第41回から49回まで国体集団演技の演技内容の頻度について

表III-8は、第41回から49回までの集団演技の演技内容の頻度を男女別に示したものである。演技内容については、28カテゴリーを設け、系列毎に次のように分類された。カテゴリーは、1)遊技、リズム遊び、2)体操系<2>-8)、ダンス係<9>-10)、郷土芸能・民謡系<12>-14)、

〈表III-8〉 集団演技における演技内容の傾向 (男女)

演技内容の項目	男子(件)	女子(件)
1) 遊技・リズム遊び	14	15
2) 徒手体操	4	1
3) 手具体操	9	9
4) 組体操	5	2
5) リズム体操	0	0
6) その他の体操	0	1
7) 体操競技・器械体操	1	0
8) 新体操	1	2
9) ダンス・表現	48	58
10) ジャズダンス	0	3
11) マーチングバンド・パントアリンゴ	0	9
12) 郷土芸能・太鼓	9	8
13) 民謡	12	19
14) 琴・尺八の演奏	1	1
15) フォークダンス	0	0
16) 海外の踊り	3	4
17) 剣道	2	2
18) 柔道	1	1
19) なぎなた	0	0
20) 少林寺拳法	0	0
21) 空手	1	1
22) 武芸その他	1	0
23) トランポリン	2	2
24) サッカー	5	4
25) バレーボール	1	2
26) スポーツその他	1	1
27) 人文字	16	16
28) その他	2	2
不明(男子以外)	20	1
合計	159	164

踊り<15>-16)、武道系<17>-22)、スポーツ<23>-26)、人文字<27>)、その他である。

男子集団演技の演技内容全体の結果は、①ダンス・表現(N=48)、②遊技、リズム遊び(N=14)、③民謡(N=12)、④手具体操(N=9)、⑤郷土芸能、太鼓(N=9)、⑥組体操(N=5)、⑦サッカー(N=5)、⑧海外の踊り(N=3)、⑨剣道、トランポリン(N=2)、⑩体操競技・器械運動、新体操、琴・尺八、柔道、空手、武芸その他、バレーボール、スポーツその他<ボート>

(N=1)、⑩その他(N=2)<ボート(1)、網引き保存会(1)>、⑪人文字(N=16)であった。

演技構想に基づき特定のテーマを表現する演

技構成が多いのでダンス・表現の演技内容がほとんどを占める。テーマを表現するために郷土の地理や特性、地域特有の歴史や伝統性のあるものなどダンス的な多様な身体運動の多彩さ、動きの美、男性の力強さや女性の曲線的な優しい動きの表現、多集団による群舞また人による事物の形や文字等の造形など多彩な演技展開がなされる。

郷土芸能や太鼓、民謡などの演技も多く、各開催県で必ず取り入れられている。開催県や地域に根づく伝統的な芸能や保存される太鼓など開催会場にこだます響きは勇壮である。多様な演技内容がある中で、地域性と日本性が現される物と言えよう。少数であるが琴・尺八（京都国体）なども取り入れられており、いかにも地域特性が示されている。

手具体操や組体操などの体操系も、ダンス的な内容と並びテーマ表現の一端やはつらつとした動きの表現、手具による多彩な動きなど手具を使わない演技に比べ演技を引き立てるものである。組体操は、人により形や文字の造形、ピラミッド形成にいたるまで豊富な内容を持ち、国体以外のマスケームや一般的な運動会まで、集団演技では頻繁に利用される演技内容である<sup>15)</sup>。これは、演技内容の多彩さ、個々から徐々に発展し大集団までの造形の面白さや演技全体がかなでる美、全員の力の結集性や協力性など訴ったえる所が多く、各開催県の集団演技構成の主要部分では必ず取り入れられている。また、体操競技（器械運動）なども演技全体ではないが、愛知県高校部会の三角鉄棒など演技を盛り上げる一部として活用されている。スポーツ種目も多数でないが、スポーツ種目の実演という形で取り上げられている。具体的には、サッカー、バレーボール、剣道、柔道、空手などである。

人文字は、最後のフィナーレ及び演技の一部として必ず用いられ、形式は人や布の使用により、開催県の特徴的な事物、国体シンボルマークやマスコットの造形や表現など劇的に演技されている。

女子集団演技の演技内容全体の結果は、①ダ

ンス・表現(N=58)、②民謡(N=19)、③遊技、リズム遊び(N=15)、④手具体操(N=9)、郷土芸能・太鼓(N=9)、マーチングバンド・バトントワリング(N=9)、⑤海外の踊り、サッカー(N=4)、⑥剣道、柔道、空手、トランポリン、バレーボール(N=2)、⑦新体操、組体操、徒手体操、琴・尺八の演奏、柔道、空手、スポーツその他〈野球〉(N=1)、⑧その他(N=2)〈ポート(1)、網引き保存会(1)〉、⑨人文字(N=16)、不明(N=3)、非該当(N=3)であった。

演技内容の傾向は、おおむね男子と同一の傾向にあるが、女性にあった傾向のためかダンス・表現が圧倒的に多い。次いで民謡が多いことは、各開催県で、婦人部門が民謡の演技を選択している県が多く、また民謡研究会の参与なども強く関係しているものと思われる。県特有の内容をそのまま行うものや現代風にアレンジした内容、共同の部門との関係で調整した内容など婦人の適正や普段の身近な存在のものとして位置づけられていると思われる。

マーチングバンド・バトントワリングの演技も女性特有のもので、音楽演奏をしながらの隊形移動の変化と展開はこの部門特有のもので、バトントワラーの華麗な衣装での高度なバトンの演技が映える。またこれと同時にカラーガードによるフラッグの演技は色彩感覚や空間の印象を豊かなものにする。

演技内容を類型別に見ると、男子と比較しての違いは、ダンス系では、ダンス・表現が多い点、ジャズダンスが少数であるが取り入れられている点である。体操系では、演技内容は変わらないものの手具体操以外は少数例であり、男子に無い新体操的なものも加わる。武道は、剣道、柔道、空手以外男子ほど多彩でない。スポーツ種目においては内容も頻度もほぼ同一の傾向である。

また、これらの演技内容を演技の類型別にまとめ集計したものが表Ⅲ-8a(男子)、Ⅲ-8b(女子)である。表から、演技に関する男女の比較すると、I(遊戯、リズム遊び)、II(ダンス)、III(踊り)、VI(スポーツ)、VII(郷土芸能、民謡)、VIII(人文字)については頻度はほぼかわ

〈表III-8a〉各演技内容の類型別傾向について  
(男子)

類型	演技内容
I	遊技・リズム遊び (N=14)
II	ダンス系 (N=48) ①ダンス (N=48) ②ジャズダンス (N=0)
III	踊り (N=3) ①海外の踊り (N=3) ②フォークダンス (N=0)
IV	体操系 (N=20) ①手具体操 (N=9) ②組体操 (N=5) ③徒手体操 (N=4) ④体操競技・器械運動 (N=1) ⑤新体操 (N=1)
V	武道系 (N=5) ①剣道 (N=2) ②柔道, 空手, 武芸その他〈棒術〉 (N=3) ③なぎなた, 少林寺 (N=0)
VI	スポーツ (N=9) ①サッカー (N=5) ②トランポリン (N=2) ③バレーボール (N=1) ④スポーツその他〈野球〉 (N=1)
VII	郷土芸能, 民謡 (N=21) ①郷土芸能 (N=9) ②民謡 (N=12)
VIII	人文字 (N=16)
男子でない演技 (N=20)	

らない傾向にあった。男女差が目立つ内容は、II (ダンス系), IV (体操系) である。ダンス系は、女子は多く、小数ながらジャズダンスの演技も見られる。また、体操系では、手具体操は、男女変わらないが、組体操と徒手体操では特性のためか男子の頻度が高い。また、女子特有の内容で、マーチングバンドは男女差の顕著なものとして位置づけられる。

(2) 演技内容の9年間の経年的変化について  
表III-9 a, III-9 bは、第41回から49回までの国体集団演技に見られる男女の演技内容の9年間の経年的変化を示したものである。表より、男女の傾向は9年間で利用頻度が多く、系

〈表III-8b〉各演技内容の類型別傾向について  
(女子)

類型	演技内容
I	遊技・リズム遊び (N=15)
II	ダンス系 (N=61) ①ダンス (N=58) ②ジャズダンス (N=3)
III	踊り (N=4) ①海外の踊り (N=4) ②フォークダンス (N=0)
III	マーチングバトン・バトントワリング (N=8)
IV	体操系 (N=12) ①手具体操 (N=9) ②新体操 (N=1) ③徒手体操 (N=1) 組体操 (N=1)
V	武道系 (N=4) ①剣道 (N=2) ②柔道, 空手 (N=2)
VI	スポーツ (N=9) ①サッカー (N=4) ②トランポリン (N=2) ③バレーボール (N=2) ④スポーツその他〈野球〉 (N=1)
VII	郷土芸能, 民謡 (N=28) ①郷土芸能 (N=9) ②民謡 (N=19)
VII	人文字 (N=16)
女子でない演技 (N=1)	

年的な変化が示すものは次の通りである。

(男子の傾向)

- (1) ダンス・表現 (48) 41回から49回まで連続
- (2) 人文字 (16) ……41回から49回まで連続
- (3) 遊戯リズム遊び(14)42・43・46・47・48・49回
- (4) 民謡 (12) ……42・43・46・47・48・49回
- (5) 手具体操 (9) ……42・45・49回  
郷土芸能 (9) ……41・42・43・44・48・



〈表III-9a〉 41回から49回の集団演技における演技内容の変化（男子）

	手 具 用 具 の 項 目	41	42	43	44	45	46	47	48	49	合計
体 操 系	1) 遊戯・リズム遊び		2	1	1	1	4	2	1	2	14
	2) 徒手体操	2								2	4
	3) 手具体操		3		1	3				2	9
	4) 組体操	1	1					2		2	6
	5) リズム体操										0
	6) その他の体操										0
	7) 体操競技・器械体操									1	1
	8) 新体操								1		1
ダンス	9) ダンス・表現	3	5	6	5	3	13	5	5	3	48
	10) ジャズダンス										0
	11) マーチングバンド ・バトントアリング										0
郷 芸 系	12) 郷土芸能・太鼓	1	1	2	1				2	2	9
	13) 民謡		1	1			7	1	1	1	12
	14) 琴・尺八の演奏			1							1
踊 り	15) フォークダンス										0
	16) 海外の踊り						3				3
武 道 系	17) 剣道				1		1				2
	18) 柔道						1				1
	19) なぎなた										0
	20) 少林寺拳法										0
	21) 空手		1								1
	22) 武芸その他		1								1
ス ポ ー ツ	23) トランポリン			1			1				2
	24) サッカー	1	1		1	1			1		5
	25) バレーボール								1		1
	26) スポーツその他						1				1
	27) 人文字	2	1	1	1	3	2	2	2	2	16
	28) その他		1			1					2
	合計	10	18	13	11	12	33	17	14	19	

49回

(6) 組体操 (6) ……41・42・47・49回

(7) サッカー (5) ……41・42・47・49回

(8) 徒手体操 ……41・49回

(女子の傾向)

(1) ダンス表現 (58) ……41回から49回まで連続

(2) 民謡 (19) ……42・43・46・47・48・49回

(3) 人文字 (16) ……41回から49回まで連続

(4) 遊戯リズム遊び(15)42・43・46・47・48・49回

(5) 手具体操 (9) ……41・42・44・45・49回

(6) 郷土芸能 (8) ……41・42・43・44・48・49回

マーチング (9) ……41回から49回まで、

(7) 踊り (4) ……46・47回

サッカー (5) ……41・42・44・45・48回

上記の結果より、9年間で頻度が高く、継続して取入れられている演技内容は、男子ではダンス・表現、人文字、遊戯・リズム遊び、民謡、

〈表III-9b〉 41回から49回の集団演技における演技内容の変化（女子）

	手 具 用 具 の 項 目	41	42	43	44	45	46	47	48	49	合計
	1) 遊戯・リズム遊び		2	1	1	1	4	2	1	3	15
体 操 系	2) 徒手体操	1									1
	3) 手具体操	1	3		1	2				2	9
	4) 組体操							2			2
	5) リズム体操										0
	6) その他の体操	1									1
	7) 体操競技・器械体操										0
	8) 新体操						1		1		2
	ダ ン ス	9) ダンス・表現	4	5	6	6	4	13	8	5	7
10) ジャズダンス		1		1						1	3
	11) マーチングバンド ・バトントアリング	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
郷 芸 系	12) 郷土芸能・太鼓	1	1	2	1	1			2	1	9
	13) 民謡	1	2	2	1	1	8	1	2	1	19
	14) 琴・尺八の演奏			1							1
踊 り	15) フォークダンス										0
	16) 海外の踊り						3	1			4
武 道 系	17) 剣道			1			1				2
	18) 柔道						1				1
	19) なぎなた										0
	20) 少林寺拳法										0
	21) 空手		1								1
	22) 武芸その他										0
ス ポ ー ツ	23) トランポリン			1			1		1		3
	24) サッカー	1	1		1	1			1		5
	25) バレーボール		1								1
	26) スポーツその他	1					1		2	2	6
	27) 人文字	2	1	1	1	3	2	2	2	2	16
	28) その他	1	1				1				3
	合計	16	19	17	13	14	37	17	18	20	

郷土芸能であり、女子ではダンス・表現、民謡、人文字、遊戯・リズム遊び、民謡であった。男女共通の内容は、ダンス・表現、人文字、遊戯・リズム遊び、民謡である。女子特有の内容としては頻度が少ないが、マーチングバンドが演技内容として慣例的に取り上げられている。

また、開催県別の演技内容の傾向及びそのカテゴリー別の内容の使用傾向についてまとめたものが、表III-10である。各開催県別に見ると、ダンス・表現と郷土芸能を主体として、体操系、遊戯・リズム遊び、スポーツ、人文字で構成している傾向がわかる。

男子では、ダンス・表現、郷土芸能を主に構成され、体操系に、遊戯・リズム遊び系、人文字、スポーツを少なく配分している。開催県によっては、42回・45回・49回などは体操系を多く配分している県もある。女子では、ダンス系、郷土芸能系が男子より多く配分されている県もみられる。女子では、ダンス系、郷土芸能が男子より多く配分され、その他、遊戯・リズム運動系、体操系、人文字、スポーツが小数配分されている。

演技内容数の経年的変化は、男子では10個から33個、女子では14個から34個であるが、46

〈表III-10〉 各開催県集団演技の演技内容の傾向及び演技内容カテゴリー別の傾向

開催回	遊 戯 リズム		体 操		ダンス 表 現		マーチング		郷土芸能		踊り等		武 道		スポーツ		人文字		その他		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
41	0	0	3	3	3	5	0	1	1	2	0	0	0	0	1	2	2	2	0	1	10	16
42	2	2	4	3	5	5	0	1	2	3	0	0	2	1	1	2	1	1	1	1	18	19
43	1	1	0	0	6	7	0	1	4	5	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	13	17
44	1	1	1	1	5	6	0	1	1	2	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	11	13
45	1	1	3	2	3	4	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	3	3	1	0	12	14
46	4	4	0	1	13	13	0	1	7	8	3	3	2	2	2	2	2	2	0	1	33	37
47	2	2	2	2	5	8	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	17	17
48	1	1	1	1	5	5	0	1	3	4	0	0	0	0	2	4	2	2	0	0	14	18
49	2	3	7	2	3	8	0	1	3	2	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	19	20

回の石川国体を除くと 10 から 20 個の間を上下している。男女で比較すると女子の方が、演技内容数が多い傾向にある。このことは、集団演技の動員傾向として、教育機関はもとより、婦人部門が多数動員され、更には、最近ではスポーツ活動などまでも女性の参加が多いことに起因しているものと思われる。

#### IV 結 論

本研究の目的は、国内で開催されるマスゲームとして大規模で著名な国体集団演技の基礎研究として国体 41 回から 49 回大会までの国体集団演技を対象として各開催県の演技構想の傾向、演技構成プログラムの特性と傾向、演技に関係する要因の実状を調査すると共に 9 年間の変化の傾向を明らかにすることであった。研究の結果次のような点が明らかになった。

1. 第 41 回から 49 回国体集団演技の演技テーマ、演技構想、演技題については、開催県別に記述、整理されまとめられた。また、各開催県別に演技テーマ及び演技構想の基となる素材が抽出され整理された。素材の具体的な観点は、自然(例、山、川、山なみ、太陽、四季など)、歴史(例、悠久、流れ、あゆみなど)、未来(例、未来など)、新しい世界(例、アルカディアなど)、交通(例、甲斐路など)、エネルギー(例、熱気、心のたかまり、躍動、力、ときめく心、みなぎる力、ときめき)、夢

(例、夢のひろがり、夢など)、愛(例、愛いま国境を超える世界の中石川)、知(例、知など)、国際性、郷土、開催県(例、北、愛知、石川、わが約束の大地、郷土をたたえる、ふるさとの歌など)であった。

#### 2. 第 41 回から 49 回国体集団演技の演技プログラム構成の特性及び演技配列、演技時間、演技規模について

1) 各開催県の演技プログラム構成の特性の傾向は、各県で個性的な演技プログラムを構成しており、固定的な傾向は見られない。プログラム内の式典前後の演技配列については、特定の配列順序はなく個性的である。式典前後の演技部門の傾向は、式典前の導入や地域の紹介、緊張の緩和などのために少年団、幼児あるいは一般部門(体操、ダンス、スポーツ活動のグループなど)が配列される傾向にある。また、式典後では、小学校、中学校、高等学校などの教育機関が主に配列される場合が多く見られる。これらは多人数動員の容易さ、高度な秩序性や集団性、表現性のある演技、男女特性のある演技を期待されることや練習を計画性、更には多人数のフィナーレの演技への対応など理由が考えられる。その他、マーチングマンド、バトントワリングは恒例的に取り上げられ式典前後いずれかに配列される。対象期間の演技プログラム構成の変化は、第 41 回から 45 回までと 48 回の演技の配列

は、式典前に主に郷土芸能、婦人、幼児、マーチングなど、式典後に小中高を主に配列するなど類似の傾向である。47回は、一般動員が少なく、幼児、小中高を主として組まれ、しかも数部門の組み合わせが特徴である。49回は、45回までの配列及び47回の部門の構成と類似した折衷傾向である。その他、46回は、従来配列、演技数、演技規模の点でも、他県のプログラム構成とは全く異っている。

- 2) 各開催県別の演技配列比については、演技の全体数は8個から11個である(47回は19個と2倍である)。また式典前の演技数は4個から6個で、式典後では、4個から5個である(47回は9個である)。式典前後の演技数の配分比は、6対4、6対5、10対9で式典前の方が多い場合と、4対4、5対5などのように同一数の場合が見られる
- 3) 演技時間については、式典前後の全体時間は90分から120分であった。全体時間の推移は、41・42回は120分、43・44回は100分、45回は90分、46回は110分、47回は100分、48回は90分、49回は100分とほぼ100分前後で安定している。全体に対して、式典前後の演技時間配分は、一部を除き式典前が後に対して1.2倍から最高2倍までの場合があり、式典前が多く配分される傾向にある。各演技の時間は、開催県の演技構成や演技部門によっても異なるが、10分程度時間に設定される場合が多い。県別の特性を見ると、41回・42回・44回・45回は一部の演技を除き10分程度の演技時間である。43回・46回・47回・48回・49回と固定時間が少なく部門に合わせた時間設定が行われている。式典最後のフィナーレの時間は、演技内容で多少異なるが、分布は3分から10分までで多くは7から8分間である。この時間設定内で、入場、整列、全体演技、人文字の演技が展開される。
- 4) 演技規模(演技人数)の分布傾向は、500-1000人、1500-2000人規模の動員が多く、他は分散している。各県の特性は、41回から45回までと48回の演技規模の傾向が類似し、46回は他県に比べ全て小規模であり

(200-1400人)、47回は、900人以上の大規模設定であり(900-3500人)、49回は規模に広がりが見られる(400-3500人)。

式典前後での人数規模の比較は式典後の方が多く配分される傾向にある。演技部門別の演技規模は、伝統芸能やマーチングなどの特殊集団や技能が高さが求められる集団の規模は小さく、幼児、小学校、中学校、高校などの教育系集団は、大規模動員である(規模が2000-3000人程度)。これは、多人数の動員性、演技練習過程の学習能力、高い技能の習得の可能性などで選択されると思われる。式典前後の全体の演技人数の分布は、9100から14200人であり、多くは1万人から1万2000人程度の動員である。式典前後の演技者数の比較は、式典前が多い場合(42・43・46・48・49回)と、式典後が多い場合(41・44・45・47回)と開催県で特性がみられる。フィナーレ演技人数の分布は、3700-6300人である(とりわけ41・42・44・45回は6000人の大規模動員である)。多人数の動員は、演技内容として国体の開催県のシンボルなどを形成する人文字形成やその準備としての演技の実施のために不可欠と思われる。

### 3. 第41回から49回までの集団演技における 手具、大型器具、服飾、演技内容の傾向について

- 1) 演技で使用された手具の傾向について対象年間通した手具利用は、男子(80.981%)、女子(92.134%)で高い利用の割合を示した。手具の内容別利用頻度は、男女供、布、ポンポン、旗、バチ、扇などが高かったが、バチを除き女子の方が高い割合を示した。手具の3カテゴリー別の利用結果は、一般的手具では布、ポンポン、旗、扇が、音がでる手具内ではバチ、太鼓リズム太鼓、和太鼓が、付屬的なもの特殊な手具ではスポーツボール、竹刀、リュックサック、手袋、木の枝、花笠が利用頻度が高い傾向にあった。カテゴリー内での男女差は、一般的な手具内で布、ポンポン、旗、扇に大きな差が見られた。これらの

手具内対象年間で頻度が高く、継続的に利用されているものとしては、男子は布、バチ、ポンポンなどで、女子では布、旗、ポンポン、バチ、扇などであった。

2) 集団演技の大型器具の利用については、男子(24.48%)、女子(19.58%)の使用率であり、手具と比較すると利用頻度は少ない。大型器具の内容は男女供、バラバルーン、ゴール、トランポリン、マット・ラート・メリーゴーランド・オール、ハンドボールゴールとバレーボール白線とネットなどであった。男子に特有なものは、梯子、三角鉄棒であった。

3) 演技の服飾(衣装)の上着、下着、ソックス、シューズ、附属、特殊その他の傾向は次のような結果であった。上着類の内容及び利用傾向は、男女供Tシャツが頻度が最も高く、以下準じて男子ではランニング、マントである。また女子では次いでレオタード、マーチングユニフォーム、着物が多い。下着類の利用傾向は、男女供短パン・ショートパンツが最も多く、男子ではスパッツ、女子ではスパッツ、スカートは、レオタードの利用が多い中で、上着との組合せやスパッツやスカート(特に巻きスカート)の組合せのできるものも見られる。ソックス類では、男女供、ソックス、ストッキング・タイツ、ハイソックスであった。女子の場合には他の衣装との関係でタイツやストッキングなどの利用がみられる。シューズ類の利用は、男女供、シューズ、足袋の利用が多く見られた。前記の衣装を補足する付属品類については、各演技内容で多彩であるが、男供帽子が最も多くその他は男女差がみられた。これらは、演技構想の関連で用いられる特殊衣装(民族衣装、動物の扮装、能楽衣装など)などと共に演技のできればえをひきたて演出的な効果を引き出すものと思われる。

6) 集団演技の演技内容の傾向として、対象年度内で頻度が高いものは、男子では、①ダンス・表現、②人文字、③民謡、④手具体操、⑤郷土芸能、太鼓、⑥組体操、⑦サッカーなどであった。一方、女子では、①ダンス・表

現、②民謡、③人文字、④遊技・リズム遊び、⑤マーチングバンド・バトントワリング、⑥太鼓、⑦海外の踊り、サッカーであった。

対象年度内の演技内容で頻度が高く、継続して取り扱われ、しかも男女共通の内容は、ダンス表現、人文字、遊技・リズム遊び、民謡である。各開催毎の演技内容の構成を見ると、ダンス・表現系と郷土芸能を主体として、体操系、遊技・リズム遊び、スポーツ、人文字で構成される傾向がわかる。男子では、ダンス・表現、郷土芸能を主に構成され、体操系、遊技・リズム運動、人文字、スポーツの配分は僅かである。女子では、ダンス・表現と郷土芸能が男子より多く配分され、その他、遊技・リズム運動、体操系、人文字、スポーツの配分は僅かである。

演技数の経年的推移は、男子では10個から33個、女子では、14個から34個をであるが、46回を除き10から20個を上下している。男女比較すると女子の方が演技内容数が多い傾向にあった。

以上国体集団演技の基礎研究の手始めとして第41回大会から49回大会までの集団演技を取り上げ、演技のテーマ構想、演技構成、演技に関わる要因の実状調査及び9年間の経年的変化の傾向把握を試みた。今回は、本年以降の集団演技の還元、参考を考えて最近9年間を対象としたが、本旨は第一回国体集団演技から現在までの演技の傾向を調査報告することであり、今後は、第1回国体から現行までの集団演技について公開演技の時期と開閉式に取り入れられたてからの時期を数回に分けて調査報告を行う予定である。また、今回の調査内容は、演技内容の一部に限定されたが、集団演技の演技展開は、演技外の問題から演技自体の問題、例えば演技の「起承転結」<sup>16)</sup>といわれる演技前後の入場、開列、演技の内容、隊形の形状と変化、退場や演技に関わる色彩変化、演出、運動動き、姿勢の変化などを更に見てゆくことによりマスメディアの素晴らしさの要因を探るてがかりができるものと考えている。

本研究を進める上で、国体集団演技関係の資料を提供戴きました元愛知県国体局大竹有二先

生に、また、調査資料収集からデータ処理まで御協力を戴いた元中京大学体育学部国体担当助手仲里正和さんと本研究室卒業生小林優子さんに心より感謝の意を表します。

### 参考文献

〈著書、論文関係〉

- 1) 愛知県国体局(第49回愛知県国体集団演技実行委員会式典専門委員会),「集団演技演技構想部会資料」,平成3年—平成4年
- 2) 雨ヶ崎俊子,「マスゲームの計画から演出まで」,体育の科学18巻,pp.613-
- 3) 荒木達雄,「運動会の集団演技での音楽使用に関する研究(第2報)——中学生の指導者を対象に——」,日本体育学会第46回大会大会号,1995年10月,pp.668
- 4) 古屋三郎,「運動会で行うマスゲーム」,新体育31巻1号,1961年,pp.21~27
- 5) 藤本祐次郎,「運動会のマスゲームフォークダンス民謡」,新体育pp.78-85
- 6) 藤本裕次郎,「運動会のマスゲーム(高校生を対象としてのフォーク・ダンス)」,新体育32巻9号,1962年
- 7) 羽仁 淳,「自由学園のマスゲーム」,体育の科学18巻,10号,1968年,pp.620-623
- 8) 羽二 淳,「マスゲーム」,新体育 37巻4号,1967年,pp.68-74
- 9) 濱田靖一,「学校体育とマスゲーム」,体育の科学18巻,10号,1968年,pp.596-599
- 10) 濱田靖一,「マスゲームの指導」,体育の科学 11巻,1961年,pp.476-480
- 11) 濱田靖一,「集団行動とマスゲーム」,新体育 30巻8号,1960年,pp.70-73
- 12) 濱田靖一,「運動会におけるマスゲーム」,学校体育7巻9号,1959年,pp.70-77
- 13) 濱田靖一著,「図説学校マスゲーム」,新思潮社,1976年
- 14) 濱田靖一著,「図説マスゲーム」,新思潮社,昭和36年
- 15) 濱田靖一著,「続図説マスゲーム」,新思潮社,昭和36年
- 16) 濱田靖一監修,「体操ハンドブック」,ピネバル出版,平成2年,pp.194-203
- 17) 飯田桃太郎,「マスゲームの計画から実施まで—日本体操祭に参加して—」,学校体育14巻9号,1962年,pp.79-83
- 18) 石津誠,「マスゲーム」,体育の科学1巻9号,1951年,pp.418-420
- 19) 伊藤高広,「青年スポーツ祭典」,体育の科学,18巻,10号,1968年,pp.608-610
- 20) 今村嘉雄編,「大修体育大事典」,不昧堂,1986,pp.1432-1433
- 21) 金子嘉徳,「運動会の集団演技指導に関する調査研究——中学生の指導者を対象として——」,日本体育学会第46回大会大会号,1995年10月,pp.669
- 22) 金子嘉徳,「46年ぶりに復活したチェコ体操祭ソコル」,栄養と料理,1995年3月号,pp.122-125
- 23) 川上 清,「〈中学校〉運動会のマスゲームの実例」,新体育30巻9号,1960年,pp.93-97
- 24) 川端昭夫,「第10回ワールドジムナストラダ(世界体操祭)ベルリン大会祭視察報告」,中京大学体育学論叢第37巻2号,1996年,pp.75-84
- 25) 北田和美,「運動会におけるダンスの教育的意義」,日本体育学会第46回大会大会号,1995年10月,pp.670
- 26) 紅林武男編著,「第2回スパルタキアード」,青雲社,昭和35年,
- 27) 見形道夫,「わが校のマスゲーム——日本体育大学——」,体育の科学18巻,10号,1968年,pp.617-619
- 28) 松井三雄,「マス・ゲームの心理的背景」,体育の科学18巻,pp.589-591
- 29) 正木健雄,「マス・ゲームの社会的背景——私のメモ帳から——」,体育の科学18巻,10号,1968年,pp.592-595
- 30) 森 秀,「マスゲームとしての自然美運動」,体育の科学 4巻,1954年,pp.366-369
- 31) 松延 博,「新しいマスゲームとその行い

- 方」, 体育科教育 10 卷 9 号, 1962 年
- 32) 松延 博, 「マスゲームとしての徒手体操」, 学校体育 4 卷 9 号, 1951 年, pp. 68-71
- 33) 松延 博, 「1 クラスのできるマスゲーム——高校生のために——」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 50-
- 34) 湊 井東, 「大学の体育際におけるマスゲーム」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 71-
- 35) 日本体育協会監修, 「最新スポーツ大事典」(国民体育大会の項), 大修館, 1987 年, pp. 313-315
- 36) 日本体育協会監修, 「最新スポーツ大事典」(マスゲームの項), 大修館, 1987 年, pp. 1213-1215
- 37) 日本体育協会監修, 「最新スポーツ大事典」(ソコル運動の項), 大修館, 1987 年, pp. 860-862
- 38) 成瀬京子, 「本学におけるマスゲーム出演の変遷」, 日本女子体育大学紀要 4 卷, 1974 年
- 39) 大井洋一, 「小学校高学年女子のマスゲーム」, 学校体育 13 卷 9 号 1960 年, pp. 90-93
- 40) 大谷武一, 「ソコル運動」, 体育と競技, 第 6 卷 5 号, pp. 5-14
- 41) 笹村 健蔵, 「中学生のマスゲーム(秋田国体)」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 44-
- 42) 館岡昭之助, 「高校生のためのマスゲーム躍動(秋田国体)」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 63-
- 43) 塚脇澄子, 「戸倉ハル「集団演技としてのダンス」に関する考察(そのII)——作品の構成——」, 日本女子体育大学紀要 14 卷, 1984 年, pp. 36-49
- 44) 遠山喜一郎, 「マスゲーム」, 学校体育 5 卷 9 号 1952 年, pp. 36-41
- 45) 寺田 信, 高橋実, 「小学生のマスゲーム(秋田国体)」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 32-
- 46) 山中 章市, 「高校マスゲームの実際」, 新体育 31 卷 9 号, 1961 年, pp. 62-
- 48) 吉田 夏, 「マスゲームについて」, 学校体育 13 卷 9 号, 1960 年, pp. 94-98

〈その他の資料〉

1. 国民体育大会報告書
- (1) 第 41 回国体実行委員会, 「第 41 回国民体育大会報告書」, 1986 年
- (2) 第 42 回国体実行委員会, 「第 42 回国民体育大会報告書」, 1987 年
- (3) 第 43 回国体実行委員会, 「第 43 回国民体育大会報告書」, 1988 年
- (4) 第 44 回国体実行委員会, 「第 44 回国民体育大会報告書」, 1989 年
- (5) 第 45 回国体実行委員会, 「第 45 回国民体育大会報告書」, 1990 年
- (6) 第 46 回国体実行委員会, 「第 46 回国民体育大会報告書」, 1991 年
- (7) 第 47 回国体実行委員会, 「第 47 回国民体育大会報告書」, 1992 年
- (8) 第 48 回国体実行委員会, 「第 48 回国民体育大会報告書」, 1993 年
- (9) 第 49 回国体実行委員会, 「第 49 回国民体育大会報告書」, 1994 年
2. 国体集団演技実施要項
- (1) 第 41 回国体実行委員会, 「第 41 回集団演技実施要項」, 1986 年
- (2) 第 42 回国体実行委員会, 「第 42 回集団演技実施要項」, 1987 年
- (3) 第 45 回国体実行委員会, 「第 45 回集団演技実施要項」, 1990 年
- (4) 第 46 回国体実行委員会, 「第 46 回集団演技実施要項」, 1991 年
- (5) 第 47 回国体実行委員会, 「第 47 回集団演技実施要項」, 1992 年
- (6) 第 48 回国体実行委員会, 「第 48 回集団演技実施要項」, 1993 年
- (7) 第 49 回国体実行委員会, 「第 49 回集団演技実施要項」, 1994 年
3. マスゲーム及び国体集団演技収録 VTR
- (1) 第 45 回国民体育大会実行委員会, 「とびうめ国体集団演技」, 1989 年
- (2) 第 46 回国民体育大会実行委員会, 「いしかわ国体集団演技」, 1991 年
- (3) 第 47 回国民体育大会実行委員会, 「べにばな国体集団演技」, 1992 年

- (4) 第 48 回国民体育大会実行委員会, 「東四国国体集団演技」, 1993 年
- (5) 第 49 回国民体育大会実行委員会, 「わかしゃち国体集団演技」, 1994 年
- (6) VAC 編, 「北朝鮮平和のための国際文化スポーツ祭典マスゲーム」, ビデオアートクリアイティブ, 1995 年